

千秋公園再整備基本計画

-改定計画-

(最終案)

平成30年2月

秋 田 市

千秋公園再整備基本計画 一改定計画一

| | Page |
|---------------------------------|------|
| 第1 計画の前提 | |
| 1 背景と目的 | 1 |
| 2 計画対象範囲 | 3 |
| 3 計画期間 | 3 |
| 第2 千秋公園の現況把握 | |
| 1 千秋公園の概況 | 5 |
| 2 上位・関連計画の策定状況 | 6 |
| 3 これまでの取組 | 9 |
| 4 利用実態および市民等ニーズ | 16 |
| 第3 千秋公園の現状と課題の整理 | |
| 1 自然要素の現状と課題 | 22 |
| 2 歴史的要素の現状と課題 | 26 |
| 3 利用面の現状と課題 | 29 |
| 4 中心市街地との連携に関する現状と課題 | 33 |
| 5 運営・維持管理面の現状と課題 | 35 |
| 第4 再整備の基本方針 | |
| 1 計画の基本理念 | 37 |
| 2 再整備の全体方針（体系図） | 39 |
| 3 ゾーニング別の再整備方針 | 40 |
| 4 利用動線計画 | 41 |
| 第5 再整備計画 | |
| 基本方針① 緑や花と風景の再生による、新たな魅力の創出 | 47 |
| 基本方針② 歴史的遺構の保全と継承、さらなる活用 | 54 |
| 基本方針③ 多様な目的への配慮、だれもが利用しやすい公園づくり | 61 |
| 基本方針④ 中心市街地との連携、人々の交流拠点づくり | 67 |
| 基本方針⑤ 公民連携による公園の運営マネジメントの推進 | 71 |

第1 計画の前提

1 背景と目的

千秋公園は、秋田藩佐竹氏20万石の居城「久保田城」※を礎とし、本市の歴史、伝統、文化を集約した象徴的な文化遺産であるとともに、古くから市民の憩いの場として親しまれています。また、千秋公園は本市の玄関口であるJR秋田駅に近く、中心市街地に位置することから、県内外のみならず海外からの観光客も訪れています。

本整備計画の改定は「昭和56年 千秋公園整備基本計画」、「平成9年 千秋公園再整備基本計画」（以下「前計画」という。）を受けて、社会情勢や市民ニーズ等の変化に対応した整備計画へ改定するものです。改定に当たっては、これまで継承してきた久保田城および千秋公園の歴史と、まちの中で育まれてきた自然環境を活かすとともに、誰もが利用しやすい公園づくりをすることにより、市民の憩いの場や、誰もが楽しめるにぎわい空間の形成を目指すものです。

(1) 千秋公園の位置づけ

千秋公園は、JR秋田駅に近く、豊かな緑と貴重な歴史的遺産を有する都市公園であり、市民に親しまれ、秋田市民の心の拠り所ともいえる場所です。

また、活性化への取組が進む中心市街地において、緑の拠点・歴史的象徴と位置づけられています。

(2) 久保田城の歴史と特徴

久保田城は、常陸国水戸城（茨城県水戸市）から秋田に転封された初代藩主佐竹義宣が、慶長8（1603）年に起工しました。神明山の丘陵をそのまま活かし、土塁と堀で構成された平山城です。天守閣は築かず、8基の櫓と2階建ての御出し書院が置かれました。佐竹氏は12代で明治維新を迎え、明治13（1880）年の大火で、御物頭御番所以外の本丸建物はほとんどが焼失しました。現在、城跡は千秋公園として整備され、表門などが再建されています。

佐竹義宣は、久保田城の築城に当たって、仁別川（旭川）の掘り替えによって外堀の役目を持たせ、同時に侍町と町人町を分離させた都市計画を行っています。また、神明山の東側の沼地や北側の手形山などの丘陵は、自然の備えとなり、自然と周辺地域を一体的に活用し、密接に関連づけた築城をしており、土塁と堀の構造と配置の妙は、ほかの城に優るとも劣らないものとなっています。このような構造をもつ平山城であったことが、市街地の中心部にありながらも、豊かな自然が残り、市街地を見渡す眺望を楽しむことができることから、永く市民の憩いの場所となっています。

※ 「秋田城」と称することもあるが、本計画では「久保田城」として統一した。

(3) 千秋公園の歴史と特徴

明治29（1896）年に近代公園設計の先駆者で祖庭ともいわれる長岡安平の設計により公園として整備され、秋田県出身の漢学者狩野良知が千秋公園（当時は「千秋園」と命名しました。その由来は、秋田の「秋」に長久の意の「千」を冠し、長い繁栄を祈ったものといわれています。昭和59年に、佐竹宗家義榮氏の遺志によって市に寄贈されました。

千秋公園は、内堀以北の豊かな緑に覆われた丘陵地の空間と、外堀までの文化施設が立地する低地部からなっています。外堀の周辺は、中核施設の立地等、市の重要な拠点として市民生活に密接に関わり、内堀から丘陵地にかけては、公園として長岡安平の造園以来、120年にわたる歴史を有し、古くから市民に親しまれてきました。また、日本の都市公園100選、さくら名所100選、日本100名城、池坊花遣遥100選（大手門堀のハス）、市指定文化財（名勝）に指定され、全国でも有数の公園となっています。

利用上の特質をみると、さくらやつつじの花見の時期には多くの利用者が訪れ、日常的に花や緑の観賞、自然とのふれあい、散策・ウォーキングの場として利用されています。そのほか、JR秋田駅に近接した公園として多くの観光客が来園しています。

2 計画対象範囲

本計画は、千秋公園の都市計画公園区域を対象範囲（中央図書館明徳館および旧県立美術館の敷地を含む。）とします。

都市計画公園区域内の用途地域は、第一種低層住居専用地域と第一種住居地域、商業地域に指定されています。前計画では、都市計画公園区域北側の北の丸地区等も計画対象としていましたが、都市計画法等の整備に関する法制限もなく、計画実現性が低いことから、本計画では範囲から除外します。

なお、都市計画公園区域内の八幡神社、彌高神社周辺および県民会館・秋田和洋女子高校の敷地は現在未開設区域となっています。

(1) 計画対象範囲の面積

計画対象範囲の面積は、次のとおりです。

| | |
|-----------------|-----------------------|
| 都市計画公園区域 | 20.7ha（うち未開設区域4.34ha） |
| 中央図書館明徳館、旧県立美術館 | 1.8ha |
| 計画対象範囲 | 22.5ha |

(2) 計画地周辺の用途地域

計画地南側の広小路周辺は商業地域であり、旭川およびJR奥羽本線側は第一種住居地域、北の丸地区周辺は第一種中高層住居専用地域となっています。

都市計画道路は、計画地南側（広小路）に都市計画道路秋田駅八橋線、北側（千秋トンネル通り）および東側（大手門通り）に都市計画道路秋田環状線が隣接しています。

3 計画期間

計画期間は、短期、中期、長期に分け、段階的な整備目標として設定します。

| | |
|----|----------------------------|
| 短期 | 早期に対応すべき施策（5年以内） |
| 中期 | 相応の準備期間を要する施策（15年以内） |
| 長期 | 次世代への継承も想定して対応すべき施策（将来的整備） |

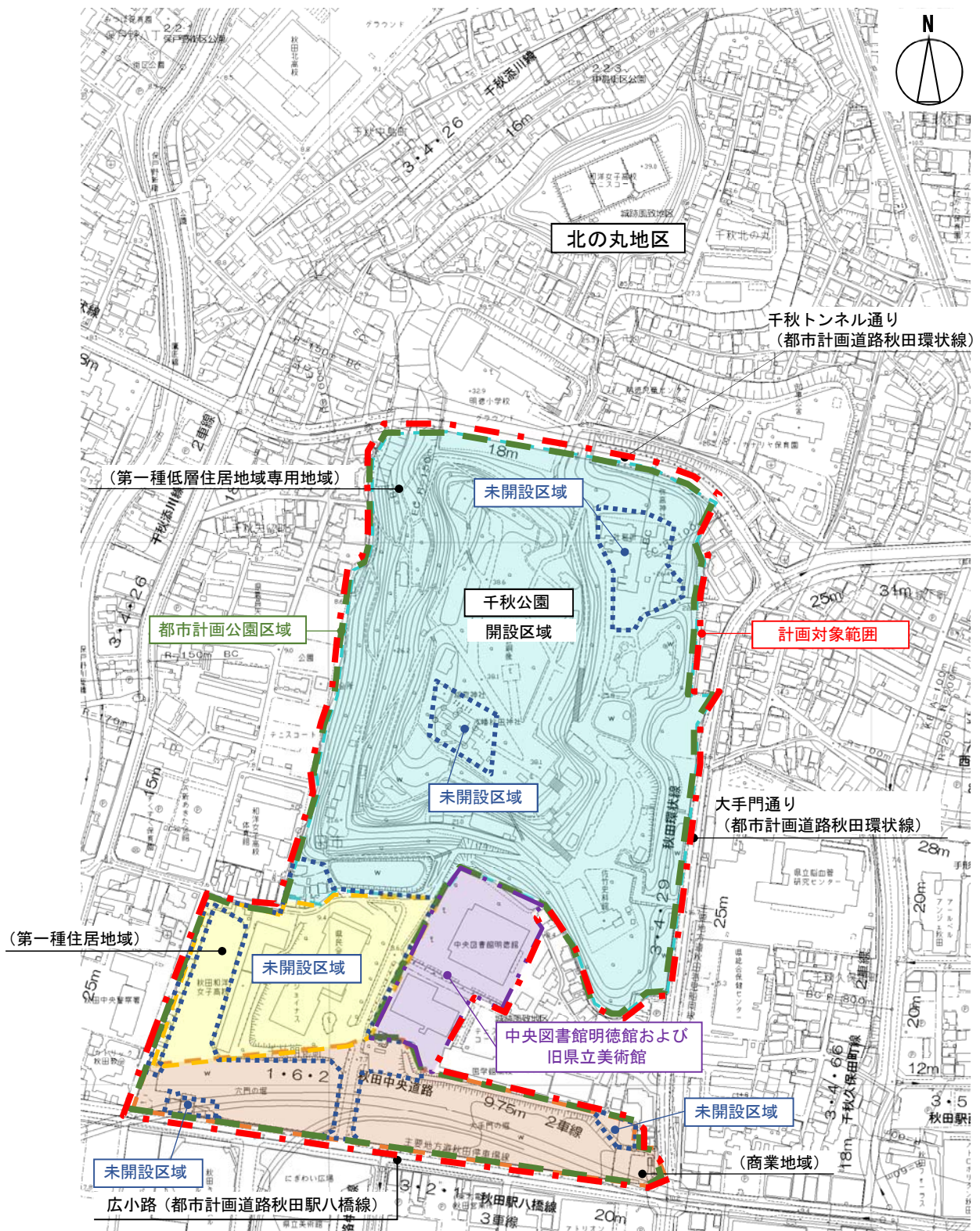


図 計画対象範囲図

第2 千秋公園の現況把握

1 千秋公園の概況

千秋公園は、日常的に花や緑の観賞や散策・ウォーキングなどに利用され、桜まつりやつつじまつりをはじめとして多くの市民や観光客が訪れています。

千秋公園の入込客数（桜まつり、つつじまつり除く。）は、平成22年に482,000人でありましたが、平成24年以降は27万人から35万人前後で推移しており、頭打ちとなっています。大きなイベントとして4月の桜まつり（平均22万人）、5月のつつじまつり（平均13万人）があり、多くの来園者で賑わいます。

久保田城址歴史案内ボランティアの会や秋田市観光案内人の会などにより久保田城跡と千秋公園の観光案内が行われています。

公園における取組の一つに、「千秋公園さくらファンド」として公園内のさくらの再生を目的とした寄附を募っており、さくらの植え替えや樹勢回復に活用されています。

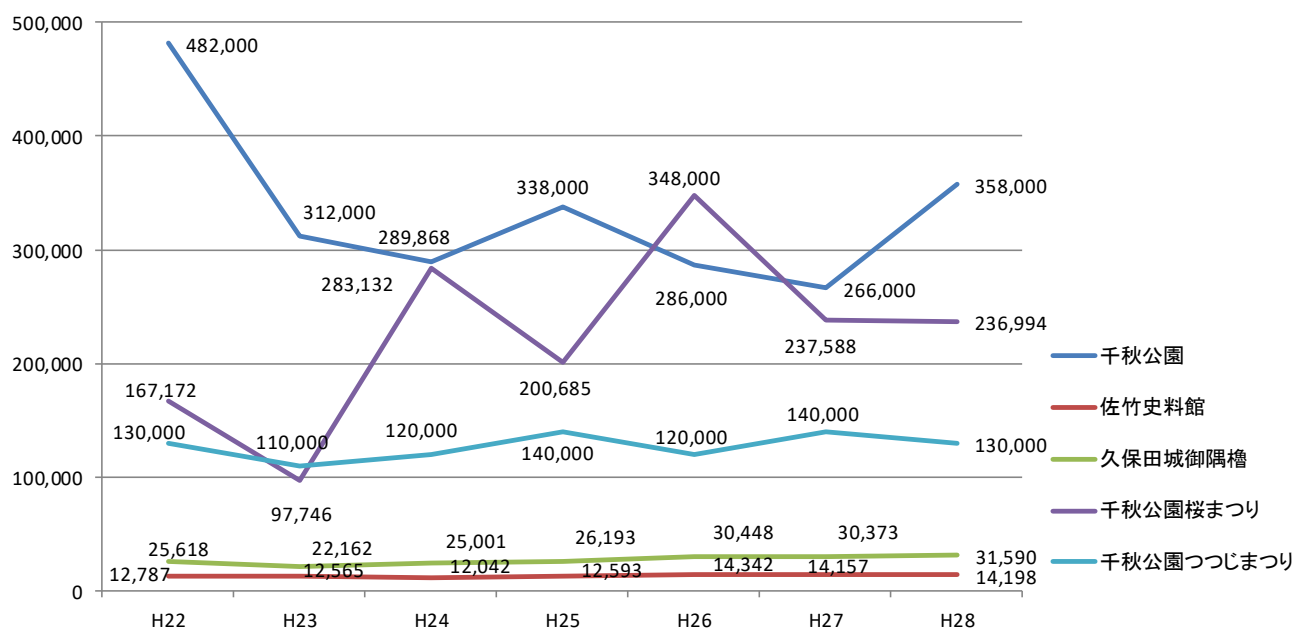
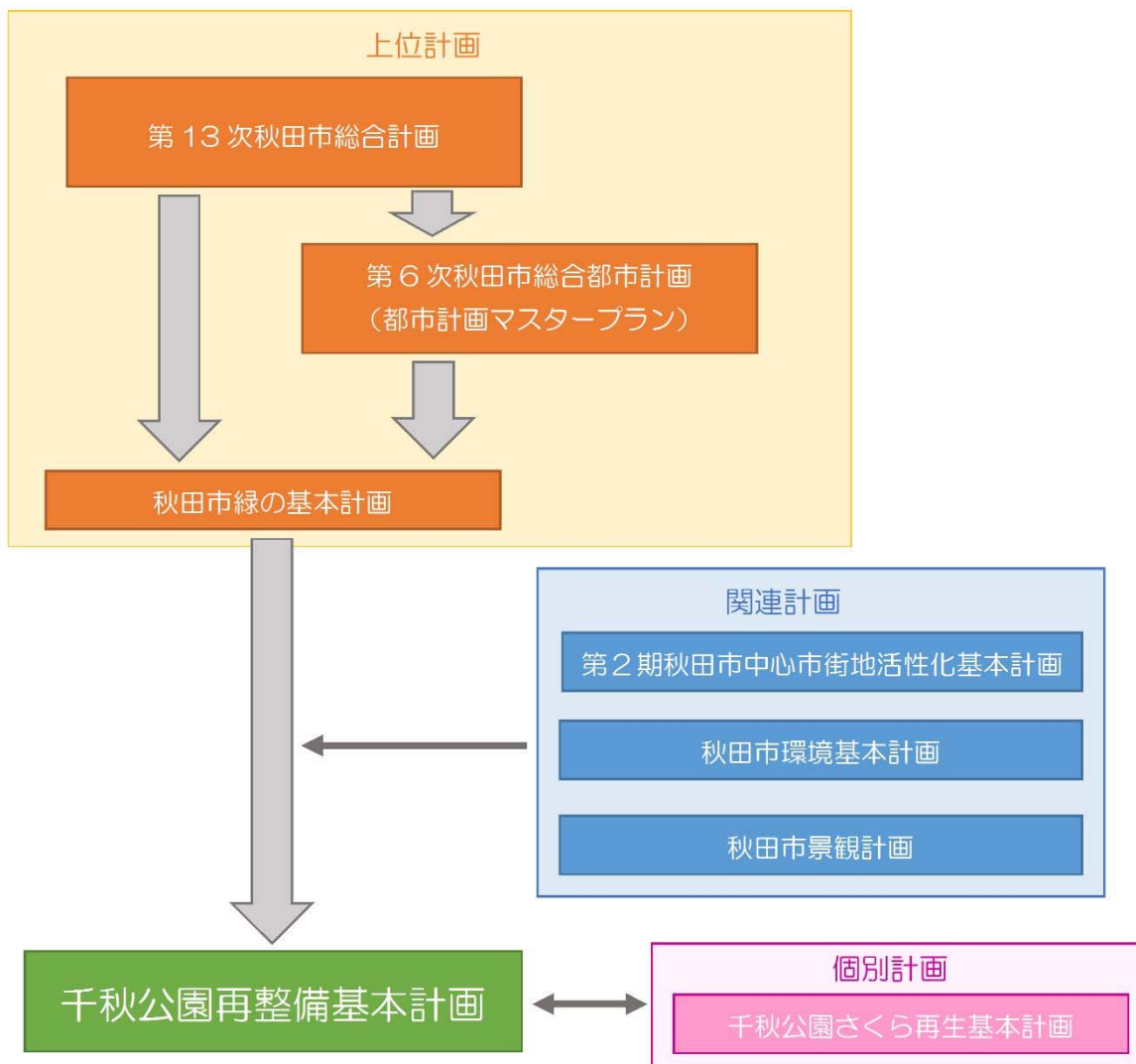


図 観光地点、行祭事・イベント入込客数推移（出典：秋田県観光統計）

2 上位・関連計画の策定状況

本計画の上位計画および関連計画の位置づけは、次のとおりです。

■上位・関連計画の位置づけ



■上位・関連計画と千秋公園に係る要素

| 位置づけ | 上位関連計画 | 千秋公園に求められる整備・機能 | 要素 | | | | |
|------|--------------------|---|----|----|------|----|------|
| | | | 自然 | 歴史 | 芸術文化 | 利用 | 管理運営 |
| 上位 | 第13次秋田市総合計画 | <ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地は本市の“顔” ・地域資源を活かし交流人口拡大 ・文化を活かした魅力あるまちづくり | | ● | ● | ● | |
| 上位 | 第6次秋田市総合都市計画 | <ul style="list-style-type: none"> ・観光拠点として整備 ・未開設部分の解消および整備拡充 ・眺望景観の確保 ・史跡、名勝の保存・整備 ・秋田らしい街なか空間 ・貴重な緑地空間 ・うるおいのある都市空間 ・観光拠点 ・豊かな自然環境 ・緑地空間の適切な保全・管理 ・公園と市街地を結ぶ導入部の魅力創出 ・中心市街地との連携強化 ・中心市街地と公園の連続性に配慮した景観の形成 | ● | ● | | ● | ● |
| 上位 | 秋田市緑の基本計画 | <ul style="list-style-type: none"> ・緑の保全 ・景観の眺望点 ・都心の緑のシンボル ・レクリエーションの場となる緑として、保全・活用 ・水と緑のネットワーク化 ・千秋公園の未開設部分の解消を目指す ・歴史を伝える機能、観光拠点としての機能の向上 ・緑のネットワークによる回廊空間の形成 ・中心市街地における風格ある緑による演出 | ● | ● | | ● | |
| 関連 | 第2期秋田市中心市街地活性化基本計画 | <ul style="list-style-type: none"> ・県・市連携文化施設や既設芸術文化施設等で構成する「芸術文化ゾーン」の形成 ・多様な人々が行き交い、新しい文化を育む舞台の形成 | ● | | ● | ● | |
| 関連 | 秋田市環境基本計画 | <ul style="list-style-type: none"> ・千秋公園等史跡と一体となった公園の整備 ・市内各地の桜まつりや千秋公園のつつじまつりの実施や支援 ・特徴的な景観の保全 ・自然の連続性やまとまりの保全 ・都市空間の安全性や快適性の向上 ・緑化等による自然との共生 ・歴史的環境の保全 | ● | ● | | ● | |
| 関連 | 秋田市景観計画 | <ul style="list-style-type: none"> ・公園の緑と調和する色彩 ・眺望景観を阻害しない工夫 ・観光都市としての景観整備 | ● | | | | |
| 個別 | 千秋公園さくら再生基本計画 | <ul style="list-style-type: none"> ・郷土色豊かな森づくり(里山の景観づくり) ・歴史的樹木の保全 ・歴史的遺構の保存 ・さくらの更新 ・公園内のバリアフリー化 ・地域協働による運営体制 ・さくらの名所づくり(イベント、広場の創出) ・利用者の園内誘導計画(誘導ポイントづくり)、誘導拠点づくり ・四季折々の千秋公園の演出 ・だれにもやさしい公園づくり | ● | | | ● | ● |

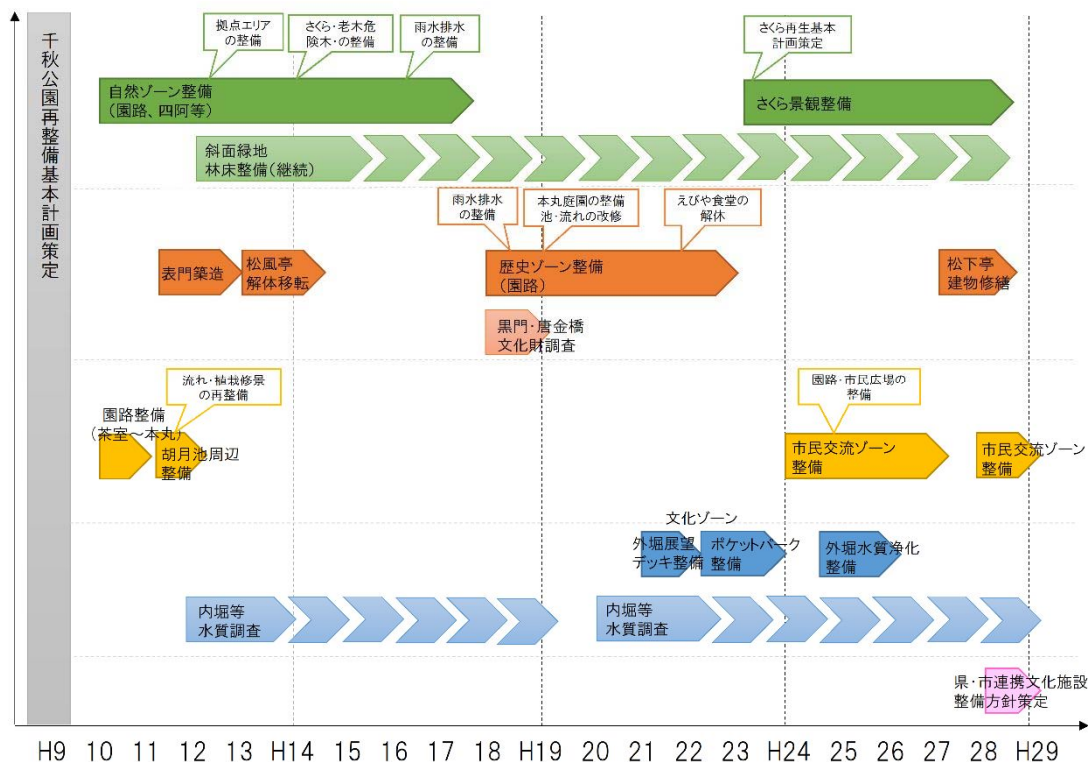
上位・関連計画の中で、本公園は下記のような位置づけや役割が求められています。

- ① 豊かな自然環境の保全とともに、さくらを含めた樹木の保存や演出
- ② 景観の眺望点としての役割
- ③ 歴史的景観の保全や歴史を伝える機能
- ④ 既存の芸術文化施設との連携や、施設間の動線・回廊の創出
- ⑤ 観光や賑わい創出の拠点
- ⑥ 生活の中での市民の憩いの場
- ⑦ 既存施設と連動し、地域協働による運営体制の構築

3 これまでの取組

平成9年2月に策定した前計画を基本として、今日まで様々な整備を行っています。

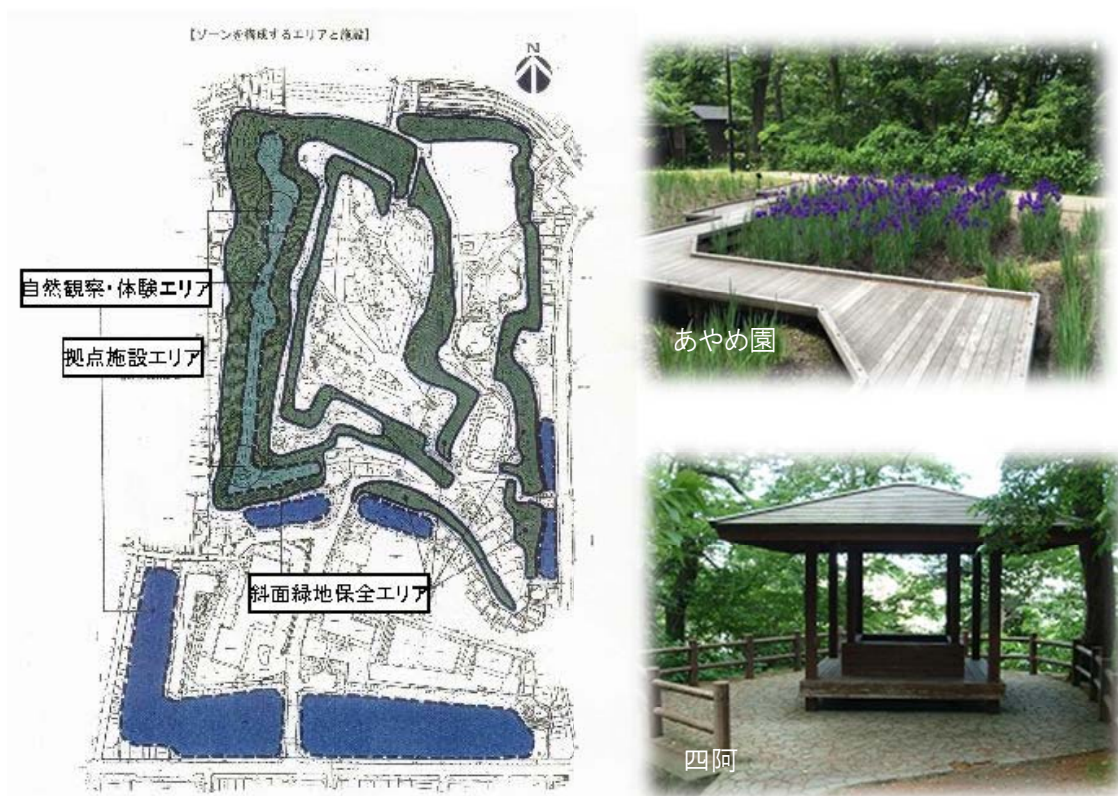
(1) これまでの整備項目



| 年度 | 主な内容 |
|--------|--------------------------|
| H10 | 園路整備 (茶室～本丸) |
| H10～17 | 自然ゾーン整備 (拠点施設エリア) |
| H12～ | 斜面緑地の林床の植栽整備 |
| H11～12 | 表門整備 |
| H11 | 胡月池周辺整備 |
| H18～22 | 歴史ゾーン整備 (本丸庭園、私有建物の移転等) |
| H22～23 | 親水空間 (ポケットパーク) の整備 |
| H23～ | さくら景観整備 |
| H24～26 | 市民交流ゾーン整備 (市民広場、園路、案内板等) |
| H25 | 外堀の水質浄化整備 |
| H28 | 市民交流ゾーン整備 (園路) |

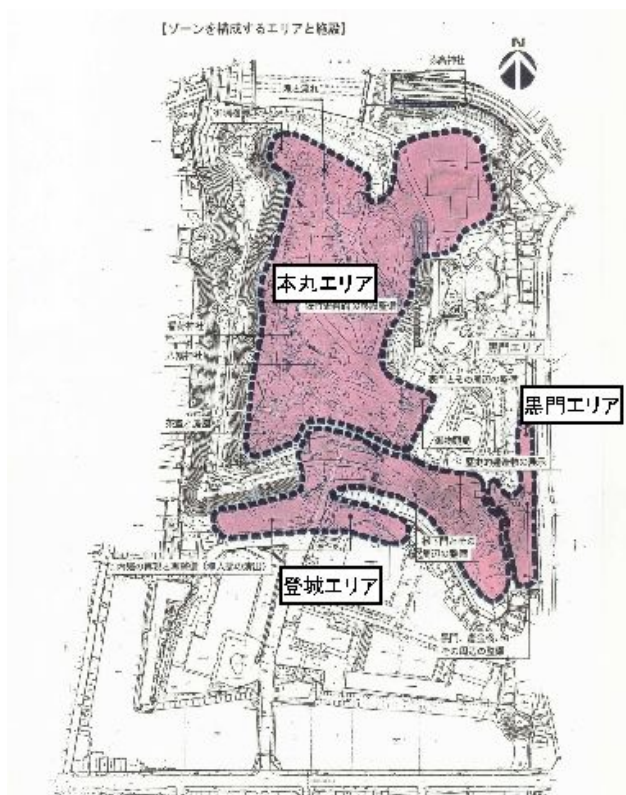
(2) ゾーン別の整備内容

ア 自然ゾーン



- (ア) 管理事務所周辺では、快適な散策空間創出のため、園路および園路沿いの整備を行いました。
- (イ) あやめ茶屋周辺では、現況の湿地を活用してあやめ園とし、散策路（デッキ）を整備しました。
- (ウ) 斜面緑地保全エリアでは、斜面緑地の保護と多様な林床植生の育成のため、林床の植栽整備を行っています。
- (エ) 眺望や休憩に配慮し、四阿を整備しました。
- (オ) 茶室～本丸ルートについて、園路沿いの植栽樹木を部分的に整理しました。
- (カ) さくら再生基本計画に基づき、さくらの再生に向けて土壌の改良をはじめとする取組を行っています。ソフト面の施策として、千秋公園さくらファンドも立ち上げています。

イ 歴史ゾーン



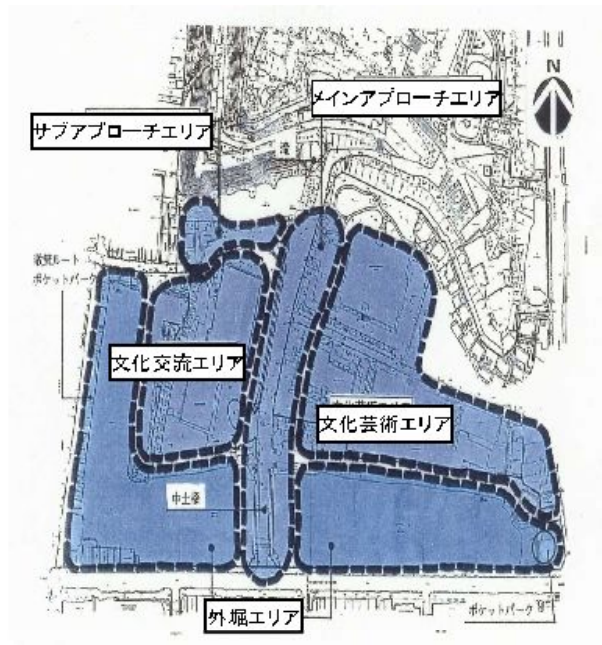
- (ア) 歴史的景観要素および動線上の景観ポイントとして、既存資料や発掘調査に基づき、表門の整備を行いました。
- (イ) 既設園路の舗装の見直しを行い、景観に意識した園路の整備を行いました。
- (ウ) 本丸エリアについて、本丸御殿の中庭をイメージした庭園とし、流れ等の整備を行いました。

ウ 市民交流ゾーン



- (ア) 市民広場を各種イベントの開催を考慮し、より利用しやすい場として整備しました。
- (イ) 胡月池エリアについて、利便性や景観に配慮し、園路の整備を行いました。
- (ウ) 景観の調和・デザインコントロールの観点より、えびや食堂は解体されました。

エ 文化ゾーン



- (ア) 親水空間の充実・利用者の起点となるよう、西側ポケットパークの整備を行いました。
- (イ) 水質悪化が懸念されていた外堀について、水質浄化を行っています。

オ 前計画での整備プログラムの実施状況

これまでの整備を前計画での整備プログラムに照らしあわせると、以下のようになります。

| 分類 | 番号 | 整備対象項目 | 整備箇所 ゾーン | 整備プログラム | | | 整備状況 |
|-------|-----------------------------|----------------------|--------------------|---------|----|------|------|
| | | | | 短期 | 中期 | 長期 | |
| 建造物整備 | 1-1 | 門の整備(表門) | 歴史 | ○ | ○ | | 実施済み |
| | 1-2 | 門の整備(黒門) | 歴史 | ○ | ○ | | 一部実施 |
| | 1-3 | 門の整備(松下門) | 歴史 | ○ | ○ | | 未実施 |
| | 2 | 唐金橋の整備 | 歴史 | ○ | | | 未実施 |
| | 3-1 | 神社周辺の修景 | 歴史 | ○ | ○ | | 未実施 |
| | 3-2 | 住宅の移転 | 歴史 | ○ | ○ | | 未実施 |
| | 4-1 | えびや食堂のデザインコントロール | 市民交流 | | ○ | | 実施済み |
| | 4-2 | 鯉茶屋のデザインコントロール | 市民交流 | | ○ | | 未実施 |
| | 4-3 | 香雲亭のデザインコントロール | 歴史 | | ○ | | 未実施 |
| | 5-1 | 松下亭のデザインコントロール又は移転 | 歴史 | | ○ | | 実施済み |
| | 5-2 | 松風亭のデザインコントロール又は移転 | 歴史 | | ○ | | 実施済み |
| | 6 | あやめ茶屋の移転又はデザインコントロール | 自然 | ○ | ○ | | 未実施 |
| | 7 | 佐竹史料館の移転整備と拡充 | 歴史 | | ○ | | 未実施 |
| 8 | 現史料館の跡地利用 | 歴史 | | ○ | | 未実施 | |
| 9 | 公園管理事務所の移転整備と跡地利用 | 自然 | | ○ | | 未実施 | |
| 10 | 鐘楼の改修 | 自然 | | | ○ | 未実施 | |
| 11 | 文化ゾーンの私設建造物のデザインコントロール又は移転 | 文化 | | | ○ | 未実施 | |
| 12 | 文化ゾーンの公共建築のデザインコントロール | 文化 | | | ○ | 一部実施 | |
| 13 | 外堀沿いの住宅・商店の移転(西側ポケットパークの整備) | 文化 | ○ | ○ | | 一部実施 | |
| 基盤整備 | 14 | 東側ポケットパークの臨時駐車場化 | 市民交流 | ○ | | | 一部実施 |
| | 15 | 中土橋から登城ルートの園路広場整備 | 文化 | | | ○ | 未実施 |
| | 16-1 | 歴史ゾーンの園路整備 | 歴史 | ○ | | | 実施済み |
| | 16-2 | 市民交流ゾーンの園路整備 | 市民交流 | ○ | | | 一部実施 |
| | 17-1 | 市民広場の整備 | 市民交流 | ○ | | | 実施済み |
| | 17-2 | 本丸庭園の整備 | 歴史 | ○ | | | 実施済み |
| | 18 | 花鳥風月の庭と胡月池周辺の整備 | 市民交流 | | ○ | | 未実施 |
| | 19 | 自然ゾーン拠点エリア他の整備 | 自然 | | ○ | | 実施済み |
| | 20 | 文化ゾーン建築外構の整備 | 文化 | | ○ | | 未実施 |
| | 21 | 茶室周辺の庭園・園路修景整備 | 歴史 | | ○ | | 実施済み |
| 22-1 | 雨水排水系統の再整備(自然ゾーン) | 自然 | ○ | ○ | | 実施済み | |
| 22-2 | 雨水排水系統の再整備(本丸エリア) | 歴史 | ○ | ○ | | 実施済み | |
| 22-3 | 雨水排水系統の再整備(登城エリア) | 歴史 | ○ | ○ | | 未実施 | |
| 23-1 | 電線類の地中化整備(自然ゾーン) | 自然 | | ○ | | 未実施 | |
| 23-2 | 電線類の地中化整備(登城エリア) | 歴史 | | ○ | | 未実施 | |
| 水と緑整備 | 24 | さくら・斜面緑地の老木・危険木の整備 | 自然 | ○ | | | 一部実施 |
| | 25 | 林床の植栽整備 | 自然 | ○ | | | 一部実施 |
| | 26 | 園路沿いの植栽修景整備 | 市民交流 | | ○ | | 一部実施 |
| | 27 | 内堀の再現・整備 | 歴史 | | ○ | | 未実施 |
| | 28-1 | 外堀の水質浄化 | 文化 | ○ | ○ | | 実施済み |
| | 28-2 | 内堀の水質浄化 | 歴史 | ○ | | | 未実施 |
| | 29 | 池・流れの改修整備(本丸エリア) | 歴史 | ○ | | | 実施済み |
| | 30 | 流れの再整備(松下坂エントランス部) | 歴史 | ○ | | | 未実施 |
| | 31 | 流れの再整備(胡月池周辺) | 市民交流 | | ○ | | 実施済み |
| | 市民の参画 | 32 | ワークショップ・イベントの企画・実施 | — | ○ | | |
| 33 | | 情報公開と計画の認知 | — | ○ | | | 一部実施 |
| 34 | | 公園のモニタリング | — | ○ | | | 未実施 |
| 35 | | トラスト・基金の創設 | — | | ○ | | 一部実施 |

(3) これまでの取組のまとめ

前計画では、計画テーマである「水と緑と歴史的資質を活かした市民による公園づくり」に基づき、表門をはじめ、市民広場、西側ポケットパークおよび堀の水質浄化設備など、千秋公園の歴史的経緯と敷地特性を活かした整備を進めてきました。

その一方で、歴史的建造物の復元や私設建造物の移転など、いくつかの整備項目が実施に至っておりません。

そのため、本計画においては、前計画の反省を踏まえ、十分な進捗管理のもと、より効果的で具体的な施策による公園づくりを進めることが求められています。

4 利用実態および市民等ニーズ

(1) 公園利用者数

千秋公園では、平成19年度および平成26年度に平日および休日の入園者数（7時から19時までの12時間）を把握するため、都市公園利用実態調査を実施しています。

ア 千秋公園の入園者数は、平日は1,000人前後、休日は1,500人前後で推移しています（表1）。

イ 年齢層別にみると、平成26年度の若年層（高校生以下）/大人/高齢者の利用割合は、平日が10.0%/57.0%/33.0%、休日が13.7%/63.3%/23.0%となっており、千秋公園と同じ公園種別である総合公園の全国的な利用割合[※]と比較すると、若年層の利用割合が低く、高齢者の利用割合が高くなっています（表1、図1）。

※ 総合公園の年齢層別利用割合（若年層/大人/高齢者の順）は、平日16.5%/62.6%/20.9%、休日23.2%/61.7%/15.1%（「平成26年度 都市公園利用実態調査 報告書」より）

表1 千秋公園入園者数

| 入園者数 | H19 平日 | H26 平日 | H19 休日 | H26 休日 |
|------------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 学齢前 | 15 | 42 | 74 | 59 |
| 小学生下級生 | 12 | 12 | 42 | 44 |
| 小学生上級生 | 11 | 6 | 20 | 34 |
| 中学・高校生等 | 33 | 53 | 160 | 63 |
| 大人 | 672 | 643 | 1,143 | 926 |
| 高齢者(65歳以上) | 191 | 372 | 397 | 337 |
| 合計 | 934 | 1,128 | 1,836 | 1,463 |

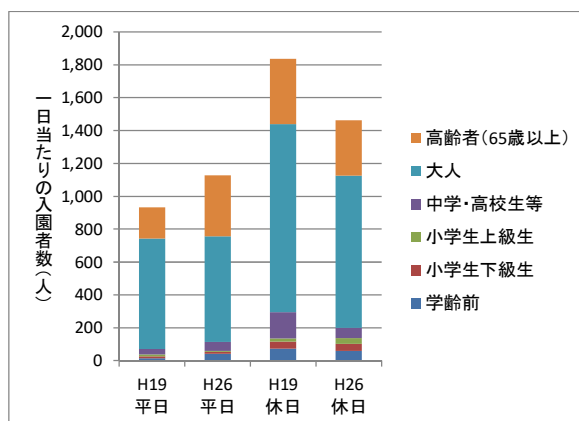


図1 千秋公園入園者数

(2) 公園の利用実態および市民等ニーズ

計画改定に当たって、市では公園の利用実態やニーズ等を把握するため、公園利用者や市民等を対象とした意向調査（アンケート調査）を平成 29 年度に実施しています。

調査概要および調査の結果は、次のとおりです。

表 2 調査概要

| 調査事項 | 実施概要 | 備考 |
|----------------|---|--------------------|
| ①公園利用者アンケート | 調査日:平日 7/26(水)、休日 8/5(土) 回収数:237 票(平日 102 票,休日 135 票) | 休日調査は竿燈まつり期間 |
| ②市民アンケート | 調査日:7~8 月(無作為抽出,郵送) 対象者:市内在住の 18 歳以上 1000 人 回収数:494 票(回収率 49.4%) | |
| ③学生アンケート | 調査日:8 月(学校へ配布) 対象者:近隣高等学校の学生 2 年生 回収数:223 票 | 国学館高等学校、秋田和洋女子高等学校 |
| ④児童アンケート | 調査日:8 月(学校へ配布) 対象者:近隣小学校の児童 5 年生 回収数:227 票 | 保戸野、中通、明德、東、旭北小学校 |
| ⑤商業・観光関係者アンケート | 調査日:8~9 月(郵送) 対象者:市内企業 149 社、中心市街地の商店街組合 18 社の計 167 社 回収数:63 票(回収率 37.7%) | |

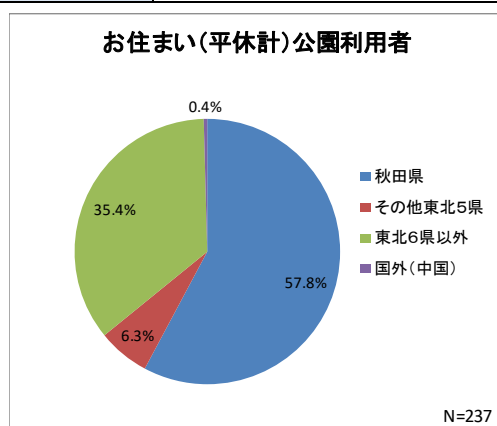


図 2 居住地（公園利用者）

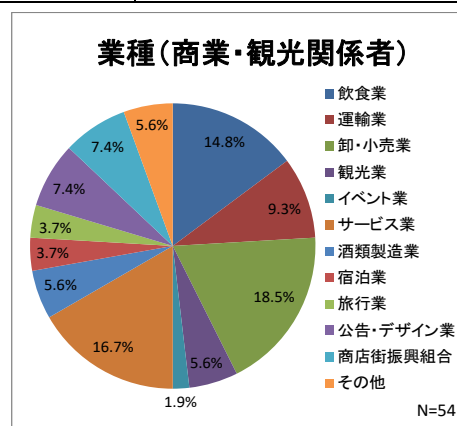


図 3 業種（商業・観光関係者）

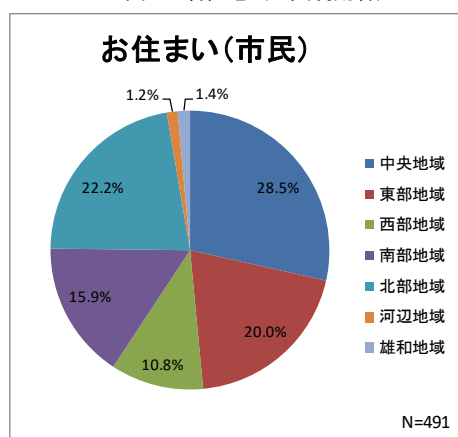


図 4 居住地（市民）

ア 利用者特性、来園目的

- (ア) 公園利用者は、日常利用（市内）と観光等利用（県外）に大別され、利用目的は日常利用では散策・ウォーキング、花や緑の観賞であり、観光等利用では歴史的な建物の見学が多くなっています（図5）。
- (イ) 市民、学生、児童アンケートでは、利用目的は、いずれも花や緑の観賞、散策・ウォーキングが多いですが、学生や児童ではイベントや催し物の見学・参加、ジョギングなどの運動も多くなっています。
- (ウ) ただし、6割の市民が昔と比べて「来園回数が減った」と回答し、中心市街地の集客性や千秋公園の魅力（さくら等）の低下、公園への交通の利便性が悪い（駐車場が少ない）ことなどが、近年の来園者数が頭打ちとなっている要因となっています（図6、7）。

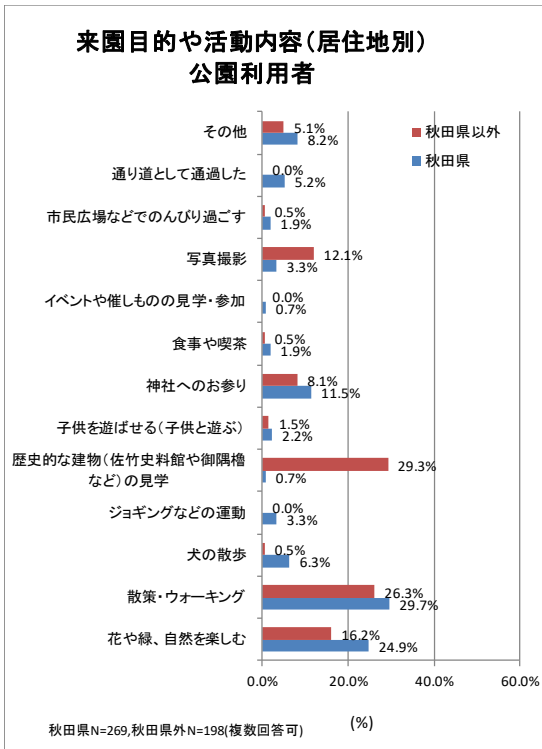


図5 居住地別 来園目的や活動内容（公園利用者）

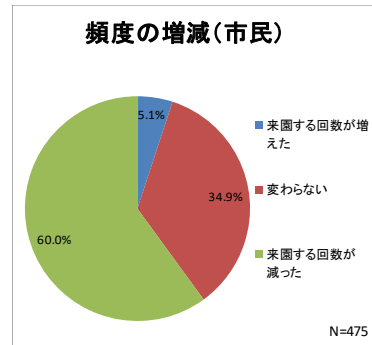


図6 頻度の増減（市民）

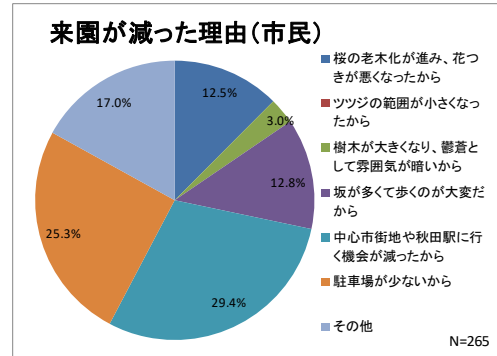


図7 来園が減った理由（市民）

イ 利用施設

- (ア) 利用が多い施設は、各アンケートとも市民広場、久保田城御隅櫓、本丸跡、表門、胡月池等となっていますが、現地アンケートでは、特定の施設ではなく園路（散策路）の利用が多くなっています（図8）。
- (イ) 利用が少ない施設は、各アンケートとも茶室「宣庵」、各私設の店舗、児童遊園地、ポケットパークなどとなっています（図8）。
- (ウ) 利用が多い施設では、久保田城御隅櫓、表門、胡月池は比較的満足度が高くなっていますが、売店、本丸跡は満足度が低くなっています（図9）。

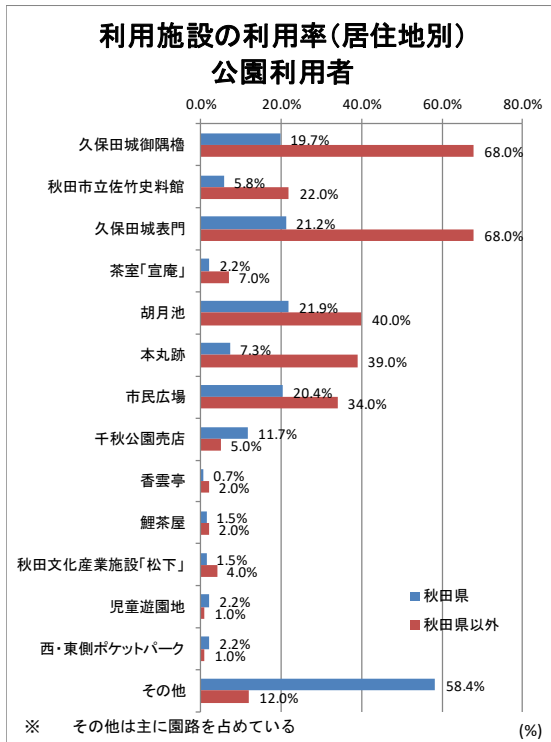


図8 利用施設の利用率（居住地別）

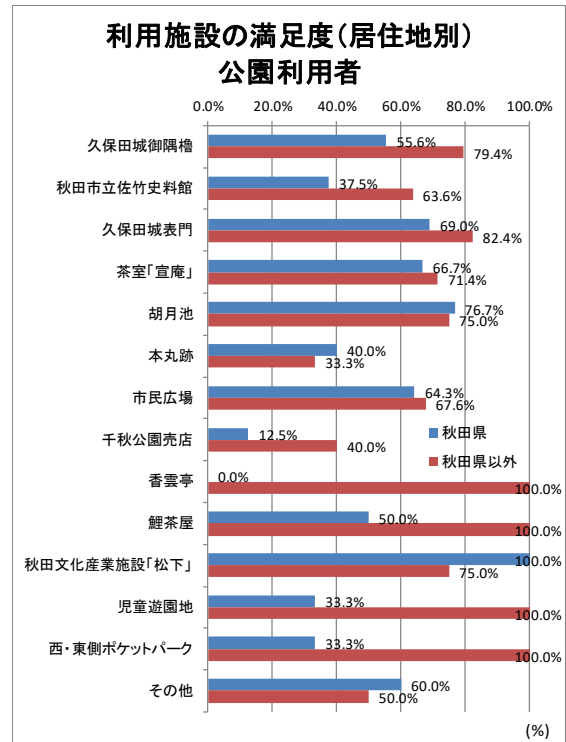


図9 利用施設の満足度（居住地別）

ウ 改善すべき点

- (ア) 改善すべき点は、各アンケートとも駐車場の増設、さくらの老木の更新、支障木の伐採などが多くなっています（表3）。
- (イ) 特徴的な傾向として、県外利用者（観光）は、案内板や誘導標識の充実、学生は飲食施設やイベントの充実、商業・観光事業者は歴史文化的なイベントや中心市街地と連携した体験やイベントの充実を求めている意見が多くなっています（表3）。

表3 改善すべき点（アンケート別）（アンケート結果より抽出）

| 改善事項 | 公園利用者 (県内) | 公園利用者 (県外) | 市民 | 学生 | 商業・観光関係者 |
|------|-------------------------|---------------------------------------|--------------------------|----------------------------|---------------------------|
| 1位 | さくらの老木の更新、支障木の伐採(35.0%) | 案内板や誘導標識の充実(36.0%) | 駐車場の増設(61.7%) | カフェ・レストラン(35.9%) | 駐車場の増設(58.7%) |
| 2位 | 駐車場の増設(24.8%) | ハスの観賞用の栈橋やデッキ(14.0%) | さくらの老木の更新、支障木の伐採(37.9%) | コンビニエンスストア・売店(34.1%) | 歴史・文化的なイベントや催し物の充実(38.1%) |
| 3位 | 遊び・休憩ができる広場、開放空間(14.6%) | 駐車場の増設(13.0%) | 遊び・休憩ができる広場、開放空間(31.0%) | 冬季のイベント(イルミネーションなど)(31.8%) | さくらの老木の更新、支障木の伐採(38.1%) |
| 4位 | 案内板や誘導標識の充実(13.9%) | 主要園路のバリアフリー化(12.0%) 黒門などの復元(12.0%) | カフェ・レストラン(28.7%) | 歴史・文化的なイベントや催し物の充実(31.4%) | 中心市街地と連携した体験やイベント(36.5%) |
| 5位 | カフェ・レストラン(9.5%) | カフェ・レストラン(12.0%) | 中心市街地と連携した体験やイベント(24.9%) | 主要園路のバリアフリー化(28.7%) | カフェ・レストラン(31.7%) |

エ 民間活力・事業参入意向

- (ア) 千秋公園の活性化には、公園内でのイベントや催し物、カフェ・レストランの充実を求める意見が多くなっています（表3）。
- (イ) 千秋公園での事業参入意向としては、カフェ・レストラン等の収益事業、イベント（祭り等）時の出店（飲食）が複数企業でみられ、民間活力導入の可能性が窺えます（アンケート結果より）。

オ 自由記述における意見（アンケート結果より）

- (ア) 施設整備（ハード）に関する意見としては、案内標識、駐車場、飲食施設、遊戯施設、休憩施設に対する要望が多く、児童からは、公園の緑や自然、地形を活かした遊びや体験（例：アスレチック、キャンプ、サイクリング等）が多くなっています。
- (イ) 管理・運営（ソフト）に関する意見では、さくらの更新、イベントの充実、公園のPR（情報発信）などが多くみられ、特に学生や児童はイベントの充実に関する意見が大半を占めています。
- (ウ) 一方、公園利用者アンケートでは、「このままで良い」等の現状維持に肯定的な意見も多くなっています。

カ 利用実態および市民等ニーズのまとめ

(ア) 来園者の属性（年齢や居住地）に応じた来園目的やニーズの多様さ

- a 市民は日常的な利用として、花や緑の観賞、散策・ウォーキング、学生や児童はイベントや催し物の見学・参加、ジョギングなどの運動、県外利用者は歴史散策等（観光）など、来園者の属性に応じて来園目的や活動内容が多様化しています。
- b そのため、改善すべき要望も、自然（さくらの更新）、歴史文化（案内板、歴史的建造物の復元）、その他公園利用に関する利用（駐車場の増設、カフェ・レストラン、イベント充実）など、来園目的に応じて優先順位が異なっており、ニーズに応じた再整備が必要となっています。
- c また、歴史文化・自然的な価値の保全・継承すべき課題と、利用促進・利便性の向上に関する課題が相反しています。（例：城跡の地形保存⇔園路のバリアフリー化、自然・緑の保全⇔開放的な空間、眺望の確保）

(イ) 利用率の格差と満足度が低い公園施設

- a 園内施設は、市民広場、久保田城御隅櫓など利用が多い施設と、児童遊園地、ポケットパークなどの利用が少ない施設に大別され、利用状況の格差が大きくなっています。また、散策・ウォーキング、ジョギング等の回遊的な園路（散策路）の利用も多くなっています。
- b 千秋公園売店、本丸跡は、比較的に利用されているものの満足度が低く、改善を図っていく必要性があります。

(ウ) 民間活力導入の可能性

- a 民間企業からのカフェ・レストラン等の収益事業に関する事業参入意向が見られ、民間活力導入の可能性が示唆されます。
- b イベント（祭り等）時の出店（飲食）などの参入意欲も複数みられるため、参入しやすい機会（イベントの充実）や場所（建物や敷地）の提供により、公園や周辺施設の利用促進や活性化が期待できます。

第3 千秋公園の現状と課題の整理

1 自然要素の現状と課題

(1) さくらの樹勢の衰えや老木化、更新の停滞

ア 現状と取組

- (ア) 千秋公園のさくらは、明治25(1892)年に羽生氏熟氏を総代とする「有終会」の寄付によって植えられた1170本に由来し、現在の公園の成り立ちの礎となった祖庭・長岡安平の設計理念にも活かされ、今日に至っています。
- (イ) 明治時代からさくらの名所として市民に愛され、平成2年4月には「さくら名所100選」に選定されましたが、老木化、根元の踏圧などにより樹勢の衰えが進行しています。
- (ウ) 市では、「千秋公園さくら再生基本計画」(平成22年度)を策定し、土壌改良等により樹勢の回復を図ることで、できる限り既存の樹木を残す手法でさくら再生の取組を進めています。
- (エ) なお、平成20年度に「千秋公園さくらファンド」を創設し、その費用を一部に充て、さくら再生に取り組んでいます。



明治時代の千秋公園のさくら

イ 市民・利用者等の意識やニーズ

- (ア) 千秋公園への来園目的は、子どもから大人まで「花や緑、自然を楽しむ」が多い一方で、来園が減った理由として、さくらの老木化が進み、花つきが悪くなったことを挙げる人が1割以上を占めています。
- (イ) 千秋公園の改善すべき点として、多くの市民がさくらの老木の更新や支障木の伐採を挙げています。

ウ 課題のまとめ

- (ア) さくらの再生に向けて、既存の樹木を残す取組を進めていますが、抜本的な解決には至っていません。
- (イ) さくらの植え替えなどの将来を見据えた、次世代に引き継ぐ取組が急務となっています。

(2) 樹木の生長や過繁茂による鬱そうとした空間や眺望阻害の進行

ア 現状と取組

(ア) 千秋公園は、自然の丘陵地形を活かした高台に立地しているため、市内を360度望むことができる眺望の優れた場所として、市民に親しまれています。



久保田城御隅櫓からの秋田駅方向の眺望

(イ) しかしながら、樹木の生長により本園の魅力である眺望や、久保田城御隅櫓や表門などの歴史的建造物を眺める視点も限定されつつあります。

(ウ) 市では、長坂の法面緑化をはじめ、低木や地被類の植栽などにより、斜面緑地の保護と多様な林床植生の育成は進めてきましたが、高木の密度や樹木の高さの適正化にはさらなる取組が必要です。



本丸周辺の樹林の繁茂状況（昭和初期と現在の比較）

イ 市民・利用者等の意識やニーズ

(ア) 千秋公園に写真撮影を目的とした来園者からは、改善すべき点として、鬱そうとした樹木のせん定や間伐のための伐採（開放的な空間や眺望の確保）を望む意見が挙げられています。

ウ 課題のまとめ

(ア) 過繁茂な樹林地については、樹勢が衰えた老木や倒木などの恐れがある樹木を伐採し、鬱そうとした空間を改善していく必要があります。

(イ) 眺望を阻害している樹木については、せん定や間伐のための伐採を行い眺望を確保していく必要があります。

(3) 貴重な動植物の生育や生息環境の保護・保全

ア 現状と取組

- (ア) 園内には、シナイモツゴ（内堀）やゼニタナゴ（胡月池）、大賀ハス（胡月池）、ニホンタンポポ（御出し書院東側）等、市街地にありながら貴重な動植物が生息・生育しています。
- (イ) 園内の自然環境の状況を把握するため、市では前計画の自然ゾーンを対象とした自然環境調査（平成 10 年度）を実施しています。
- (ウ) しかしながら、貴重な動植物に関する情報など、公園利用者への十分な魅力発信ができていない現状です。
- (エ) 内堀の水源確保として、外堀から水の供給を行っていますが、シナイモツゴへの影響や種のかく乱が懸念されます。

イ 課題のまとめ

- (ア) 貴重な動植物の保護を行うため、まず生息・生育状況の実態把握が必要です。
- (イ) 千秋公園の自然の特徴や貴重な動植物の情報を発信することが必要です。

(4) 堀の水質浄化の一層の推進と快適性の向上

ア 現状と取組

- (ア) 千秋公園の堀（外堀、内堀）は、城跡としての証であり、貴重な動植物の生息・生育環境であり、公園の玄関口として人々が憩う空間となっています。
- (イ) しかしながら、底泥の巻き上げや植物プランクトンの増殖により水質悪化が進んだことから、市では、昭和 46 年以降水質浄化（旭川からの取水、水のかくはん等）に取り組んでおり、平成 25 年度には取水量確保のため旭川からの送水管更新整備を実施し、水質の改善に努めると共に水質調査を継続しています。
- (ウ) 水質が改善されつつある外堀の、親水空間としての快適性を高めるとともに、内堀の水質浄化を推進することが求められています。



外堀の水質浄化（噴水によるかくはん）



内堀の現状

イ 課題のまとめ

- (ア) 内堀については、貴重な動物（シナイモツゴ）の保護・保全にも配慮した上で、水質浄化を推進することが必要です。
- (イ) 外堀については、これまでの水質浄化を継続するとともに、公園のエントランス（親水空間）として、快適性を高めていく必要があります。

(5) 四季折々の花や緑による魅力の向上

ア 現状と取組

(ア) 千秋公園は、市民アンケートによると、約7割の方が、さくらやつつじ、ハス等の「花や自然、緑を楽しむ」ことを目的に来園しています。

(イ) 本園では、さくら等以外にも、アヤメやショウブ（あやめ園）、藤（胡月池）、スイレン、コウホネ（茶室宣庵の池）、キツネノカミソリ（茶室千庵脇）、ジャーマンアイリス（児童遊園地）、ナニワズ（園路沿い）、マルバゴマギ（松下門から管理事務所に至る園路沿い）など、多様な草花に彩られています。



明治時代の藤棚（胡月池）

(ウ) しかしながら、昔と比べて藤棚も規模が小さくなり、さくらの花つきも悪くなっており、抜本的な改善が必要となっています。

(エ) 今後、さくらの更新（植え替え）により、一時的に規模の縮小などが予想されるため、その他の草花の演出を含め、新たな魅力づくりが必要となっています。

千秋公園を彩る四季折々の草花



コウホネ



アヤメ



マルバゴマギ



ジャーマンアイリス



キツネノカミソリ



ナニワズ

イ 課題のまとめ

(ア) さくらの根本的な再生を行うことを見据え、千秋公園の特徴である花や緑の演出による新たな魅力づくりが必要です。

(イ) 園内に生育している、美しい草花の情報発信が必要です。

2 歴史的要素の現状と課題

(1) 歴史的建造物の復元の困難さ

ア 現状と取組

(ア) 前計画では、歴史的建造物として、表門（一の門）、黒門、松下門、唐金橋、佐竹史料館（本丸への移転整備）を復元・整備対象としていましたが、平成29年度時点で整備が完了している施設は、表門のみとなっています。



平成12年に復元整備された表門

(イ) 整備が進んでいない理由としては、久保田城築城後、何度か大火にみまわれ、配置や構造が変化していること、詳細な資料が十分でなく、史実に則った文化財として価値の高い正確な復元が難しいこと等が挙げられます。

(ロ) 佐竹史料館は、築61年を迎え、老朽化が顕著であることに加え、施設の狭あいにより、展示・収蔵品の管理に支障が生じています。



劣化が著しい鐘楼

(ハ) また、改修の対象であった鐘楼は、整備プログラムとしては長期（将来的整備構想）の位置付けとしていたため、現時点では未整備となっていますが、劣化が著しく早期の改修が必要となっています。

イ 市民・利用者等の意識やニーズ

(ア) 来園者アンケートによると、公園の来園目的や活動内容は、「散策・ウォーキング」、「花や緑、自然を楽しむ」が多くを占め、次いで「歴史的な建物の見学」、「神社へのお参り」となっています。なお、県外からの来園者では、「歴史的な建物の見学」が一番多く、約29%を占めています。

(イ) 来園者や市民等アンケートによると、公園で利用した施設は「久保田城御隅櫓」と「久保田城表門」などの歴史的建造物の利用の割合が高く、特に、県外からの来園者ではその傾向が高くなっています。

ウ 課題のまとめ

(ア) 参考となる歴史的資料の不足等から、歴史的建造物の復元・整備が進んでいません。

(イ) 歴史的建造物である「久保田城御隅櫓」や「表門」は公園利用者の利用割合が高く、県外利用者においては、「歴史的な建物の見学」が主な利用目的となっていることから、城跡公園としての歴史要素のさらなる充実が求められています。

(ロ) 佐竹史料館は施設の老朽化が顕著であり、公園の魅力向上に寄与する施設として、早期の改修整備が必要です。

(2) 歴史的遺構等の案内や解説の不足

ア 現状と取組

(ア) 茶室（宣庵）の舟形手水鉢や御出し書院跡など、歴史案内板などが不足している箇所があります。

(イ) 一部の解説板等の表記内容の情報が更新されていないものもあります。

イ 市民・利用者等の意識やニーズ

(ア) 来園者アンケートによると、改善すべき点として、「案内板や誘導標識の充実」を求める意見が、「駐車場の増設」や「さくらの老木更新・支障木の伐採」とともに多くなっており、特に県外からの来園者に限定すると、最もニーズが高く、約36%を占めています。

ウ 課題のまとめ

(ア) 説明が必要な歴史的遺構の案内板が不足していることに加え、歴史情報が乏しい解説板があります。

(イ) 歴史的な視点からの見学者も多い県外からの利用者が、案内板等の充実を求めていることから、案内板の適切な配置と正確な情報提供が必要です。

(3) 土塁等、特徴的な地形の保全

ア 現状と取組

(ア) 久保田城は、丘陵地形をそのまま活かした平山城であり、千秋公園には、その特徴である地形（土塁等）が多く残っています。

(イ) 歴史資源として、現在に至るまで改変を極力抑え保全していますが、樹木の生長等により表土の流出や、崩壊のおそれがあります。



表土の流出が見られる土塁

イ 市民・利用者等の意識やニーズ

(ア) 久保田城の特徴である土塁や丘陵地形は、城を守る施設として歴史的にも貴重な遺構ですが、一般の公園利用者には分かりにくく、その価値を伝える必要があります。

ウ 課題のまとめ

(ア) 久保田城の特徴である土塁や丘陵地形は、樹木の生長等により表土の流出や崩壊のおそれがあり、保全していく必要があります。

(イ) 丘陵地形を活かした、特徴的な地形である土塁の価値を、分かりやすく公園利用者へ伝える必要があります。

(4) 歴史的要素の視認性阻害と景観調和要素

ア 現状と取組

- (ア) 一部の樹木や電線等が、歴史的要素である表門や久保田城御隅櫓などの施設の視認性を阻害しています。
- (イ) 園内には、城跡や公園の景観に馴染んでいない私設建造物や電柱などが点在しています。
- (ウ) 私設建造物等は、移転やデザインコントロールを進める方針となっておりますが、所有者との調整等の問題から進展していません。



久保田城御隅櫓の眺望を阻害する樹木



園内の電柱や電線



イ 課題のまとめ

- (ア) 一部の樹木や電線等が歴史的要素の視認性を阻害しており、景観性向上や利用促進を図るため、阻害要素の除去が望まれます。
- (イ) 公園内の私設建造物等は、デザインコントロール等によって、できる限り公園の景観に馴染むよう調整することが望ましいです。

3 利用面の現状と課題

(1) 駐車場の不足、急傾斜（坂道）な地形

ア 現状と取組

(ア) 千秋公園内の駐車場は、児童遊園地の南側にバス専用駐車場（7台）、二の丸に隣接してコインパーキング（14台）が整備されていますが、駐車可能な場所や駐車台数が非常に少ないのが現状です。

(イ) 千秋公園は、久保田城跡の地形を活かし、三段の段丘からなっており、本丸と外堀では標高差が30mにも及び急傾斜（坂道）となっていますが、長坂の階段への手すりの設置など、段階的に改善を進めています。



二の丸近くのコインパーキング



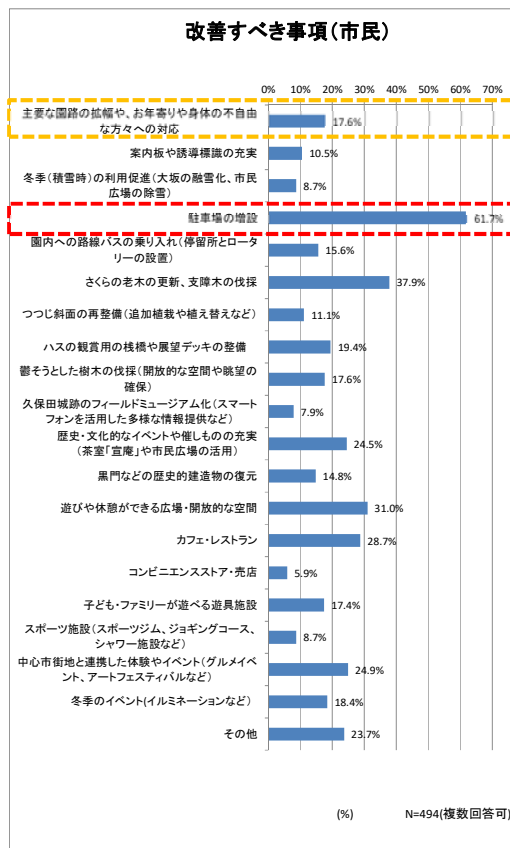
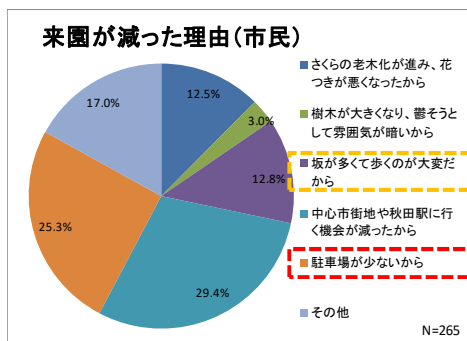
長坂の坂道改善策（手すりの設置）

イ 市民・利用者等の意識やニーズ

(ア) 来園者アンケートによると、千秋公園への来園は、徒歩が約6割と最も多く、次いで自家用車が2割弱となっていますが、自家用車で来園者のうち、園内の駐車場に駐車した人は2割程度となっています。

(イ) 市民アンケートによると、昔と比べて来園が減った理由として、「駐車場が少ないこと」が約25%、「坂が多いこと」が約13%を占めています。

(ウ) また、改善してほしい点として、「駐車場の増設」が約62%と非常に高く、「園路の拡幅やお年寄り等への対応」も約18%となっています。



市民アンケート結果【来園が減った理由、改善すべき点】

ウ 課題のまとめ

- (ア) 市民のニーズが非常に高い駐車場が不足しています。
- (イ) 城跡公園の特徴で保全すべき段丘地形が、公園利用上（特に高齢者）の障害となっています。

(2) 子どもの遊び空間（遊具）の不足

ア 現状と取組

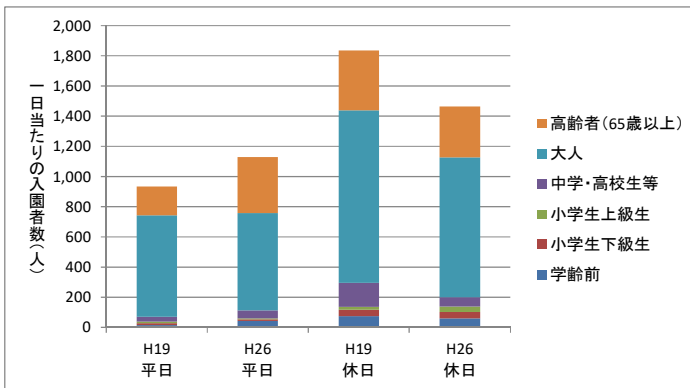
- (ア) 子どもの遊び場として、市民広場以外に、ブランコや滑り台などの遊具が設置されている児童遊園地がありますが、段丘に挟まれ高低差が大きく、幼児連れの家族などにとっては、移動が大変で使い勝手の悪い配置となっています。



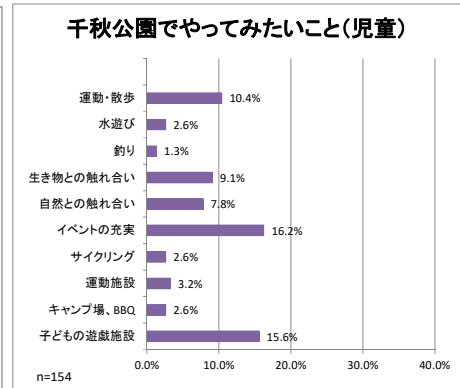
現在の児童遊園地

イ 市民・利用者等の意識やニーズ

- (ア) 千秋公園の利用実態調査（平成26年度）によると、公園利用において、一般的に多いはずの子どもの割合が非常に少なくなっています。
- (イ) 近隣小学校の児童（5年生）を対象に実施したアンケート結果によると、千秋公園でやってみたいことは、楽しい遊具やアスレチック、自然や生き物との触れ合いなどの意見が多くなっています。



千秋公園への年齢層別の来園者数



児童アンケート結果

ウ 課題のまとめ

- (ア) 既存の遊具施設があるものの、立地環境が悪く有効に利用されていません。
- (イ) 公園の自然や地形を活かした遊びや遊具施設のニーズが見られます。

(3) 公園エントランスでの案内板・誘導標識の不足

ア 現状と取組

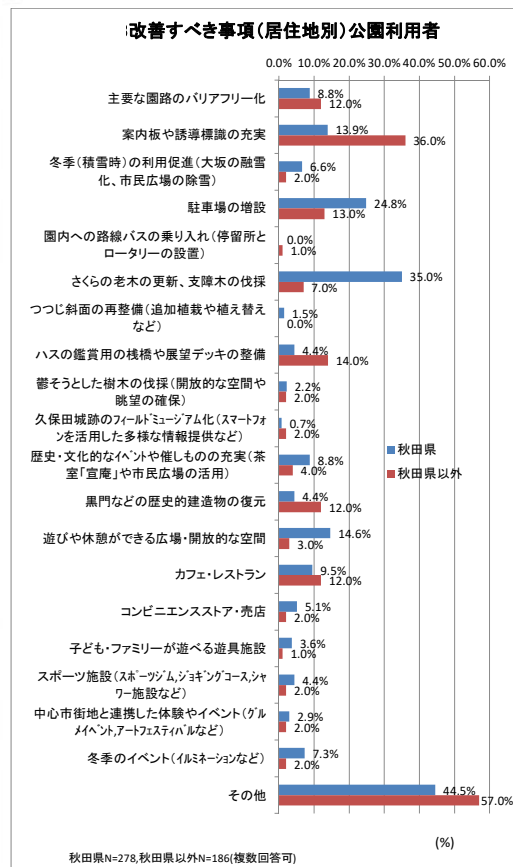
- (ア) 千秋公園には、市民の日常的な花や緑の観賞、自然とのふれあい、散策・ウォーキングのほか、観光目的による歴史散策や諸施設の見学など、県外利用者も多く見られます。
- (イ) 園内には、市民広場や東側ポケットパークへ総合案内板、表門や久保田城御隅櫓等の歴史的建造物へ解説板、園路や分岐点には誘導標識を整備しています。
- (ウ) 案内板や解説板、誘導標識の多くは、二言語表記（日・英）されているものの、訪日外国人として増加している中国や韓国、台湾を始めとしたアジア系の言語には対応していません。

イ 市民・利用者等の意識やニーズ

- (ア) 来園者アンケートによると、県外からの来園者は、改善してほしい点として「案内板や誘導標識の充実」が約36%と最も多く、中心市街地から公園へのエントランス（中土橋）での案内板がないことが要因となっています。



園内の案内板等の設置状況



来園者の改善すべき点

ウ 課題のまとめ

- (ア) 公園のエントランスへの案内板・誘導標識の充実を図る必要があります。
- (イ) 訪日外国人（観光客）の多様化に配慮した多言語表記の充実を図る必要があります。

(4) 利用特性と整合していない休憩施設やトイレの老朽化

ア 現状と取組

- (ア) 園内には、市民広場や久保田城御隅櫓周辺など、8箇所にトイレが整備されていますが、一部のトイレは老朽化が進み、またバリアフリー化もされていません。
- (イ) 園内各所に休憩施設（四阿、ベンチ）が整備されていますが、来園者の利用が集中する市民広場では、イベント時には不足する一方、現在の利用状況からあまり使われていない休憩施設も点在しています。



園内に設置された和式トイレ
(馬場のモミ脇)

イ 課題のまとめ

- (ア) トイレの老朽化が進み、一部バリアフリー化されていないものがあります。
- (イ) 公園利用の状況から設置効果を発揮していない休憩施設が点在しています。

(5) 利用者ニーズに合った飲食施設の不足

ア 現状と取組

- (ア) 千秋公園内には、市民広場の千秋公園売店のほか、私設店舗が複数設置されています。
- (イ) 秋田の文化（あきた舞妓）の体験や喫茶・飲食ができる複合施設として、秋田文化産業施設「松下」が平成28年6月にオープンしています。



園内に設置された売店（市民広場）

イ 市民・利用者等の意識やニーズ

- (ア) 来園者や市民および学生アンケートによると、改善してほしい点として、カフェやレストランなどの飲食施設の設置を求める意見が多くなっています。
- (イ) 一方、商業・観光関係者アンケートによると、千秋公園での事業参入意向について、複数企業でカフェ・レストラン等の収益事業、イベント時の出店（飲食）を挙げています。

ウ 課題のまとめ

- (ア) 利用者ニーズに合った飲食施設（カフェ・レストラン）が求められています。

4 中心市街地との連携に関する現状と課題

(1) 芸術文化施設との連携

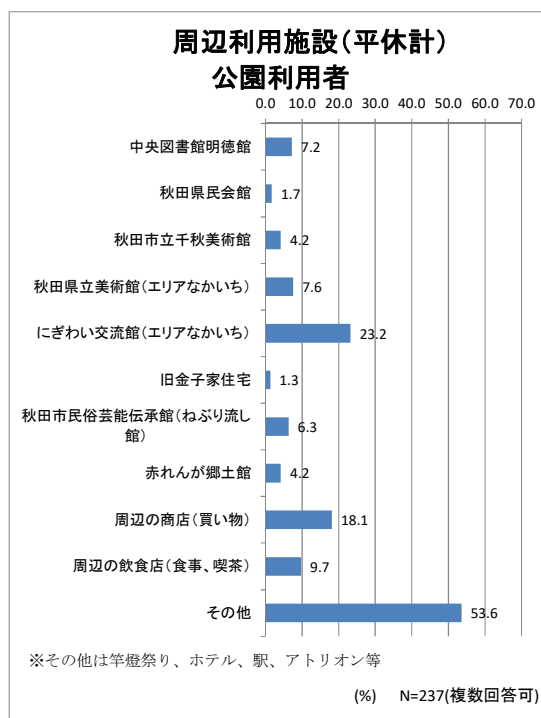
ア 現状と取組

(ア) 千秋公園の玄関口（中土橋周辺）には、秋田県立美術館やにぎわい交流館が立地し、さらに将来的に県・市連携文化施設の整備（現県民会館の敷地）や旧県立美術館の利活用が計画されています。

(イ) このような芸術文化施設と、本市の歴史の象徴であり、市民の憩いの場である千秋公園において、動線を強化し回遊性を高めることは、駅前や中心市街地の活性化、さらには本市の魅力向上にとって重要です。

イ 市民・利用者等の意識やニーズ

(ア) 来園者アンケートによると、千秋公園と併せて利用した施設として、にぎわい交流館のほか、秋田県立美術館、中央図書館明德館および秋田市民族芸能伝承館等の芸術文化施設の割合が比較的高くなっています。



千秋公園と併せて利用した施設

ウ 課題のまとめ

(ア) 中心市街地の交流拠点として、芸術文化施設との相互利用を促進していく必要があります。

(2) 案内拠点・行動起点としての東側ポケットパークの機能向上

ア 現状と取組

(ア) 千秋公園の外堀の東端・西端には、それぞれ親水空間としてポケットパークを整備（平成8年度、平成24年度）しています。

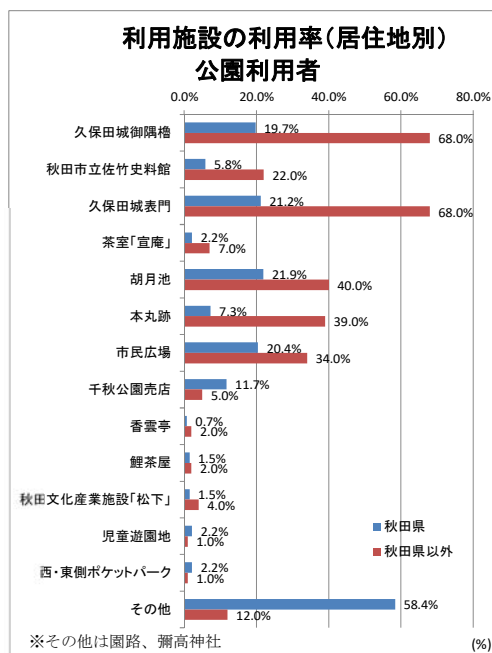
(イ) 特に東側ポケットパークは、JR秋田駅方面からの来園者の案内拠点として位置づけ、公園までのアクセスルートや園内マップ等の案内板を設置しています。

イ 市民・利用者等の意識やニーズ

(ア) 来園者アンケートによると、ポケットパークの利用は少なく、千秋公園の案内拠点・行動起点として十分に活用されていないのが現状です。



東側ポケットパーク



来園者アンケート結果

ウ 課題のまとめ

(ア) ポケットパークの利用が少なく、千秋公園への案内拠点・行動起点となっていません。

(3) 親水空間としての外堀周辺の景観の向上

ア 現状と取組

(ア) 千秋公園（都市計画公園区域）の西側外堀沿いには住宅や商店が立地しており、親水広場として西側ポケットパークを整備したものの、堀沿いの散策や修景空間として十分に機能していません。

(イ) 今後、県・市連携文化施設の整備が進むことから、芸術文化の香り高い空間、親水空間として景観を向上させていく必要があります。



西側外堀沿いの景観

イ 課題のまとめ

- (ア) 西側外堀沿い（都市計画公園区域）に住宅・商店が立地し、親水空間として景観の調和性が低くなっています。

5 運営・維持管理面の現状と課題

(1) 公園の再整備・維持管理費の縮減

ア 現状と取組

- (ア) 千秋公園では、前計画に基づき、歴史ゾーン、自然ゾーン、市民交流ゾーンおよび文化ゾーンの再整備を進めています。また、公園の運営・維持管理は、日常的な清掃や点検、植栽管理や設備管理などについて、直営および委託などで行っています。
- (イ) しかしながら、人口減少社会、超高齢化社会の深刻化に伴い、本市においても財源や人材の制約により、より一層の低廉かつ良質な公共サービスの提供が必要となっており、千秋公園の再整備や運営・維持管理においても例外ではありません。
- (ウ) このことから、既存の公園施設は、長く大切に使うことを前提とし、適切な補修や改修により長寿命化を図ることが重要となっています。
- (エ) 公園サービスの提供に当たっては、公的資金や人材だけではなく、市民やボランティア、さらには民間企業を含めた公民連携による公園の運営マネジメントが求められています。

イ 課題のまとめ

- (ア) 財源や人材の制約により、公園の再整備や維持管理費の縮減が求められています。

(2) 公園管理事務所の老朽化と機能低下

ア 現状と取組

- (ア) 市では、千秋公園を含めた市内の全都市公園を対象に「秋田市公園施設長寿命化計画」（平成 25 年度）を策定し、長寿命化対策および計画的な更新などの予防保全的管理により、ライフサイクルコストの縮減を進めています。
- (イ) 公園管理事務所は、老朽化が進んでいることに加えて、公園の南西端に位置し、公園の利用拠点や主動線からも離れていることから、公園の窓口機能や情報発信機能として十分に発揮できていません。



公園管理事務所

イ 課題のまとめ

- (ア) 公園管理事務所の老朽化と機能低下が進行しています。

(3) 公園の魅力や歴史的価値の認知度が低い

ア 現状と取組

- (ア) 千秋公園内には、歴史的建造物（久保田城御隅櫓、本丸跡、長坂、黒門、表門等）や人々が集まる空間（市民広場、ポケットパーク等）に案内板や解説板を設置しています。
- (イ) 市のホームページでは、千秋公園の紹介サイトを整備しており、園内の歴史的建造物、彫刻、碑の紹介、園内に生育している樹木の紹介のほか、公園マップも提供しています。

イ 市民・利用者等の意識やニーズ

- (ア) 来園者アンケートによると、県外からの来園者は、案内板や誘導標識の充実を求める意見が多くなっています。一方で市民アンケートによると、城跡公園としての価値や花や緑の魅力をもっと観光客等へPRすべきとの意見も多く見られます。

ウ 課題のまとめ

- (ア) ハード（案内板・解説板）とソフト（ホームページ）で、公園情報の提供を行っていますが、認知度が低く、情報提供が十分に機能していません。

(4) 利用（都市公園）と保護（文化財）の両立

ア 現状と取組

- (ア) 千秋公園は、市民の憩いの場としての都市公園の側面と、歴史的価値が高い文化財（市指定名勝）の側面を有しています。
- (イ) そのため、都市公園として来園者への利便性や公園機能を向上させる取組が、一方では文化財としての価値を低下させる可能性があり、再整備や維持管理の実施に当たっては、常に利用（都市公園）と保護（文化財）のバランスを図っていく必要があります。

イ 課題のまとめ

- (ア) 城跡公園として、利用（都市公園）と保護（文化財）のバランスの図られた再整備・維持管理が必要です。

第4 再整備の基本方針

1 計画の基本理念

(1) 基本理念

『久保田城、そして 千秋公園として育まれてきた魅力（財産）を
活かすことで、憩いとにぎわい空間を再生する』
～歴史の風情と自然に包まれ、人集い花かおる千秋の園～

千秋公園は、まちづくりや政治の中心であった秋田藩佐竹氏20万石の居城「久保田城」を礎とし、祖庭・長岡安平が手がけた公園として、設置以来120年以上にわたり、市民の憩いやにぎわいの空間として親しまれてきました。

近年、施設の老朽化やさくらの老木化が進んでいる現状により、来園者数は頭打ちとなっています。しかしながら千秋公園には、これまで育まれてきた歴史、中心市街地において豊かな自然、四季折々の花や緑、水辺などの修景という財産ともいべき魅力があります。

本計画では、これらの魅力（財産）をより活かす整備をすることで、市民の憩いの場として、また観光客も含んだにぎわいの空間として、再生させようとするものです。

(2) 基本方針

千秋公園の現状、これまでの整備状況、中心市街地などの周辺状況の変化、市民等意向調査を踏まえ、以下の整備方針を設定します。

基本方針①

緑や花と風景の再生による、新たな魅力の創出

- さくら、つつじ、ハスを始めとした四季折々の草花や緑により、彩り豊かな公園とします。
- 秋田市街を望む良好な眺望と、明るく開放的な空間を確保します。
- 市街地に残る貴重な樹林地の保全と利活用を進めます。
- 園内に生息・生育している貴重な動植物を保護し、次世代へつなげていきます。

基本方針②

歴史的遺構の保全と継承、さらなる活用

- 城跡公園としての魅力を向上させるため、歴史的資料の有無や整備効果等を考慮して取舍選択した歴史的建造物について、復元整備を行います。
- 復元整備が難しい施設についても、案内板の整備や佐竹史料館での展示等により、施設の歴史の継承を図ります。
- 正確な歴史情報を利用者に伝えるため、歴史案内板の配置と表示内容の見直しを図り、標識の充実を図ります。
- 久保田城跡の特徴である自然地形や土塁の保全を図ります。
- 景観障害要素となっている樹木や電線等の整理を行います。
- 園内に立地する私設建造物等、景観的に違和感のある施設の景観誘導を図ります。
- 佐竹史料館を、郷土学習の推進と文化遺産の保存・公開の拠点、観光振興やまちづくりに寄与する施設として改築します。

基本方針③

多様な目的への配慮、だれもが利用しやすい公園づくり

- 多様な利用形態に配慮し、アクセス性・利便性の向上を図ります。
- 動線や利用拠点を見直し、利用しやすい空間を創出します。
- 施設の充実を図り、だれもが憩い・くつろげる公園とします。

基本方針④

中心市街地との連携、人々の交流拠点づくり

- 芸術文化施設との相互利用を促し、まちの活性化に貢献します。
- 親水空間（外堀等）として、景観や魅力の向上を図ります。

基本方針⑤

公民連携による公園の運営マネジメントの推進

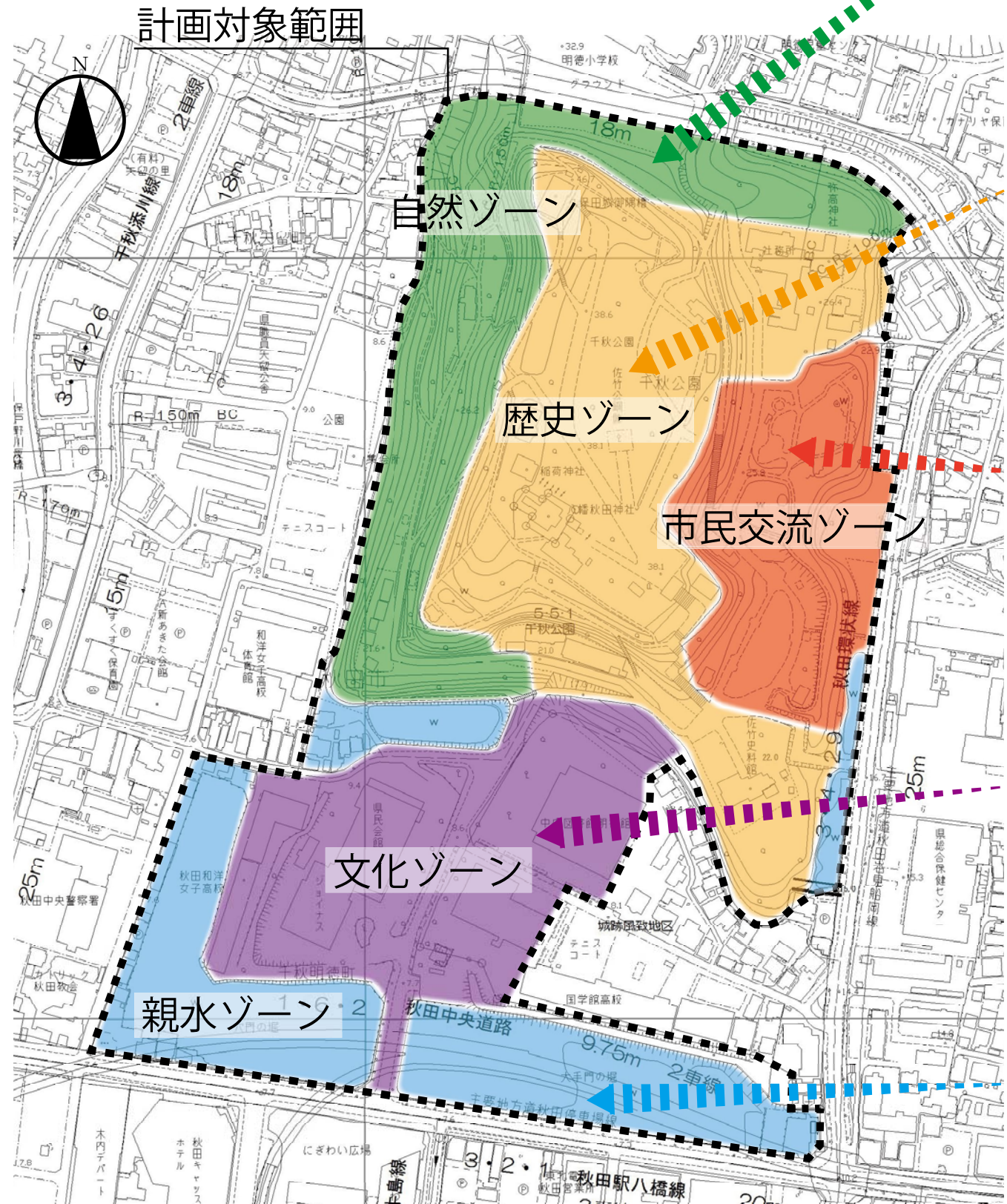
- 民間事業者との連携等により、公園の魅力や管理の質の向上を図ります。
- ソフト事業やPR活動の活性化を図り、公園のにぎわいを創出します。
- 公園の運営・維持管理機能の強化を図ります。

2 再整備の全体方針（体系図）



注) 事業スケジュールについて、施策によっては短期から取組を進めるものの、継続性が高い項目は、短期、中期、長期に至るものとした。

ゾーニング別の再整備方針図



| 自然ゾーン | |
|---|--|
| <p>■ ゾーンコンセプト 中心市街地に残された豊かな樹林を守り育てるとともに、人々が散策や観察等を通じて身近な自然と触れ合う空間として整備する。</p> | |
| ①主な利用イメージ | ・散策や花・緑の観賞、生き物の観察、ウォーキングやジョギング |
| ②整備方針の内容 | ・本園の大きな魅力の一つである花や緑を再生する。 ・市街地を望む良好な眺望と、明るく開放的な空間を確保する。 |
| ③主な整備メニュー | ・樹林地の適正管理 ・景観阻害要因の改善と開放的な空間の確保 ・フォトスポット、解説板および案内板の整備 |



| 歴史ゾーン | |
|---|--|
| <p>■ ゾーンコンセプト 久保田城跡の証である地形や歴史的建造物等を通して、歴史と触れ合うとともに、情緒あふれる空間として整備する。</p> | |
| ①主な利用イメージ | ・歴史散策や観賞、歴史・芸術・文化的イベントへの参加 |
| ②整備方針の内容 | ・歴史的な検証や整備効果を考慮し、歴史的建造物の取捨選択的な復元整備を行う。 ・歴史的な雰囲気が感じられる景観整備を行う。 |
| ③主な整備メニュー | ・黒門の整備、御出し書院の平面表示による復元 ・佐竹史料館の改築 ・さくらの再生 |



| 市民交流ゾーン | |
|---|---|
| <p>■ ゾーンコンセプト 花や緑に囲まれた広場での自由な遊びや憩い、人々が集う場として公園の拠点的な空間として整備する。</p> | |
| ①主な利用イメージ | ・遊びや憩いを中心とした利用、イベントへの参加 |
| ②整備方針の内容 | ・園内窓口・情報発信の拠点として、アクセス性や案内機能の強化を図る。 ・遊びや憩いの空間として、魅力の向上や充実を図る。 |
| ③主な整備メニュー | ・公園管理事務所の再整備 ・駐車場の拡充や動線の拡幅 ・遊び（遊具施設）や憩い（花修景、花壇）の整備 |



| 文化ゾーン | |
|--|--|
| <p>■ ゾーンコンセプト 公園エントランスとしての機能を強化し、県・市連携文化施設（計画中）や旧県立美術館（利活用予定）と一体的な交流拠点として整備する。</p> | |
| ①主な利用イメージ | ・芸術文化施設からの公園の利用 |
| ②整備方針の内容 | ・芸術文化ゾーンとして、公園エントランスとしての魅力や景観を向上させる。 ・利用動線（中土橋から大坂）までの利便性の向上を図る。 |
| ③主な整備メニュー | ・エントランスの整備（中土橋通り、松下門跡） ・冬季の利用促進（中土橋から大坂の融雪化） ・中心市街地と連携したイベントへの協力 |



| 親水ゾーン | |
|---|---|
| <p>■ ゾーンコンセプト 久保田城の遺構（外堀や内堀）、花（ハス）の眺望および散策を通して、中心市街地から人々を千秋公園や芸術文化施設へ誘う空間として整備する。</p> | |
| ①主な利用イメージ | ・中心市街地からの花や水辺の散策や観賞（観光含む） |
| ②整備方針の内容 | ・中心市街地に隣接するポケットパークを起点とした外堀沿いの遊歩道（花ハスの鑑賞）を整備する。 ・中心市街地から公園へのエントランス部分となる内堀周辺の景観や環境の向上を図る。 |
| ③主な整備メニュー | ・ポケットパーク（親水広場）からつながる遊歩道（デッキ）の整備 ・ハスの適正管理と有効活用 ・内堀周辺の景観整備（老朽化施設の撤去、休憩施設の整備） ・内堀、黒門の堀の水質浄化 |



4 利用動線計画

これまでの検討、再整備基本方針を踏まえ、以下に動線計画を示します。

(1) 動線の基本方針

- 公園としての歴史や現状の自然を活かすため、動線確保を目的とした地形の改変や樹木の伐採等は原則行わず、既存園路を活用します。
- 城跡としての複雑な園路配置と急峻な地形により、公園施設の位置関係や移動動線がわかりづらいため、利用者の目的別（自然・歴史）に回遊性に配慮したモデルルートを設定し、利用者に周知することにより、利便性の向上を図ります。
- 公園利用者の安全性を確保するため、園内の乗り入れ可能車両は、原則として管理車両等（障がい者用車両、園内私設建造物所有者車両、業務用車両）のみとします。
- 歩行者動線と車両動線が共存する園路は、舗装の明確化等による歩車分離を図り安全性を高めます。

(2) 車両動線計画

- 中土橋から二の丸エントランスまでの区間は一般車両通行可としますが、駐車台数が限られることから、障がい者用車両、公園利用者送迎車両（タクシー等）等の通行を基本とします。
- 市民広場北側の彌高神社前は、現状で一般車両が進入、駐車している状況ですが、歩行者の安全性を確保するため、管理車両や許可車両および彌高神社利用車両の通行に限定します。
- 本丸北側の斜路は、原則として管理車両やその他許可車両の本丸への車両アクセス動線としますが、本丸へのバリアフリー化を図るため、本丸北側に障がい者等駐車場を確保します。

◇ 駐車場の拡充整備

現児童遊園地（県立脳血管研究センター前）に新設駐車場を整備し、一般車両の公園への乗り入れの制限を強化します。

◇ 二の丸エントランス整備

車両転回可能な車寄せと、障がい者用車両および観光タクシーの駐車場を整備します。

(3) 歩行者動線計画

ア 公園アプローチ動線計画

(ア) 新設駐車場からのアプローチ動線

新設駐車場からの公園アプローチ動線は、唐金橋から黒門を経由するルートと、駐車場西側斜面の階段ルートの2ルートとしますが、千秋公園の歴史的観点と比較的緩勾配であることによるアクセス性等を考慮し、メインアプローチ動線は、本来の登城ルートであった唐金橋から黒門経由ルートとします。

(イ) 秋田駅方面からのアプローチ動線

秋田駅方面からの利用者のアプローチ動線は、中土橋、文化ゾーンから大坂を経由するルートと、唐金橋から黒門を経由するルートの2ルートとしますが、公園（市民広場）までのアプローチ距離が短く比較的緩勾配であることと、歴史的観点等を踏まえ、唐金橋から黒門を経由するルートを中心にメインアプローチ動線に設定します。

(ウ) 中心市街地からのアプローチ動線

公園南側の中心市街地側からの公園アプローチ動線は、中土橋、中土橋通りから大坂を経由するルートと、東側ポケットパーク、唐金橋から黒門を経由するルートおよび西側ポケットパーク、佐竹小路から大坂を経由するルートの3ルートとします。

○ 唐金橋・黒門ルートの整備

本来のメイン登城ルートとして、黒門の復元整備と唐金橋の部分改修整備を行い、城跡公園として歴史的価値の向上に努めます。

○ 新設駐車場西側階段の改修

新設駐車場西側斜面階段については、スロープの整備は困難ですが、動線としての機能を強化するため、幅員の拡幅と、ユニバーサルデザインに配慮した手すりの整備等を行います。

○ 東側ポケットパークの改修

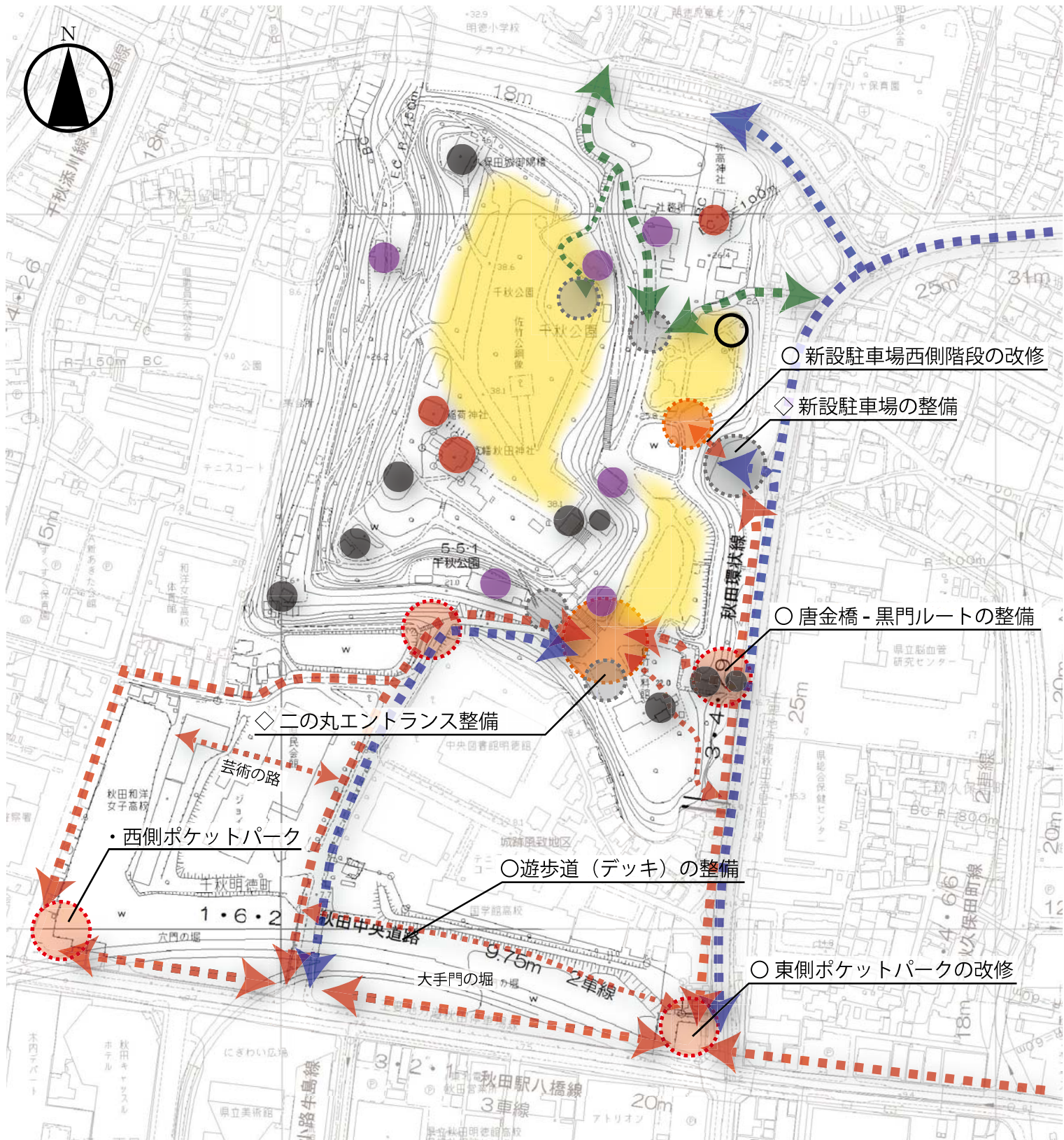
秋田駅方面からの利用者の最初の公園エントランス空間となる東側ポケットパークに、千秋公園（久保田城跡）であることを示すとともに、唐金橋跡から黒門を経由するルートに誘導するサインを整備します。

○ 遊歩道（デッキ）の整備

ハスを眺める遊歩道（デッキ）を整備し、千秋公園へつながる歩行者動線を形成・強化します。

※次頁に動線計画図【車両動線・歩行者動線（公園アプローチ動線）】を示します。

動線計画【車両動線・歩行者動線（公園アプローチ動線）】



■ 凡例

- | | | | | | | | |
|--------------|------------|------------|-----------|------------|------------|------------|--------|
| ◀ ■ ▶ | ：一般車両 | ● (Red) | ：公園エントランス | ● (Yellow) | ：広場利用エリア | ● (Purple) | ：収益施設等 |
| ◀ ■▶ (Green) | ：管理車両・許可車両 | ● (Orange) | ：公園利用起点 | ● (Black) | ：歴史的建造物・要素 | ○ (White) | ：管理事務所 |
| ◀ ■▶ (Red) | ：歩行者 | ● (Grey) | ：駐車場 | ● (Red) | ：神社 | | |

イ 公園内動線計画

園内における歩行者動線は、基本方針に示したとおり、地形の改変や樹木の伐採等を避けるため新たな園路は整備せず、既存園路を活用する計画とします。

ただし、城跡としての複雑な園路配置や急峻な地形により、目的地までの移動ルートがわかりにくいいため、自然と歴史の目的別のモデルルートを設定し、案内板等による周知を行い、移動ルートを明確に示すことにより、利用者の利便性の向上を図る計画とします。

【公園内動線設定方針】

- 各ルートは、公園（市民広場・本丸広場）のメインエントランスとなる「二の丸エントランス」と「胡月池の北側」を行動起点として設定します。
- 設定した拠点等を経由しながら、回遊性の高い動線とします。
- 主要な拠点や見どころを経由し、比較的短時間で周遊可能な主動線と、ゆっくりと多くの見どころをまわることができる副動線を設定します。

■ 自然散策ルート

公園利用起点から、以下に示す自然拠点等を経由するルートを設定します。

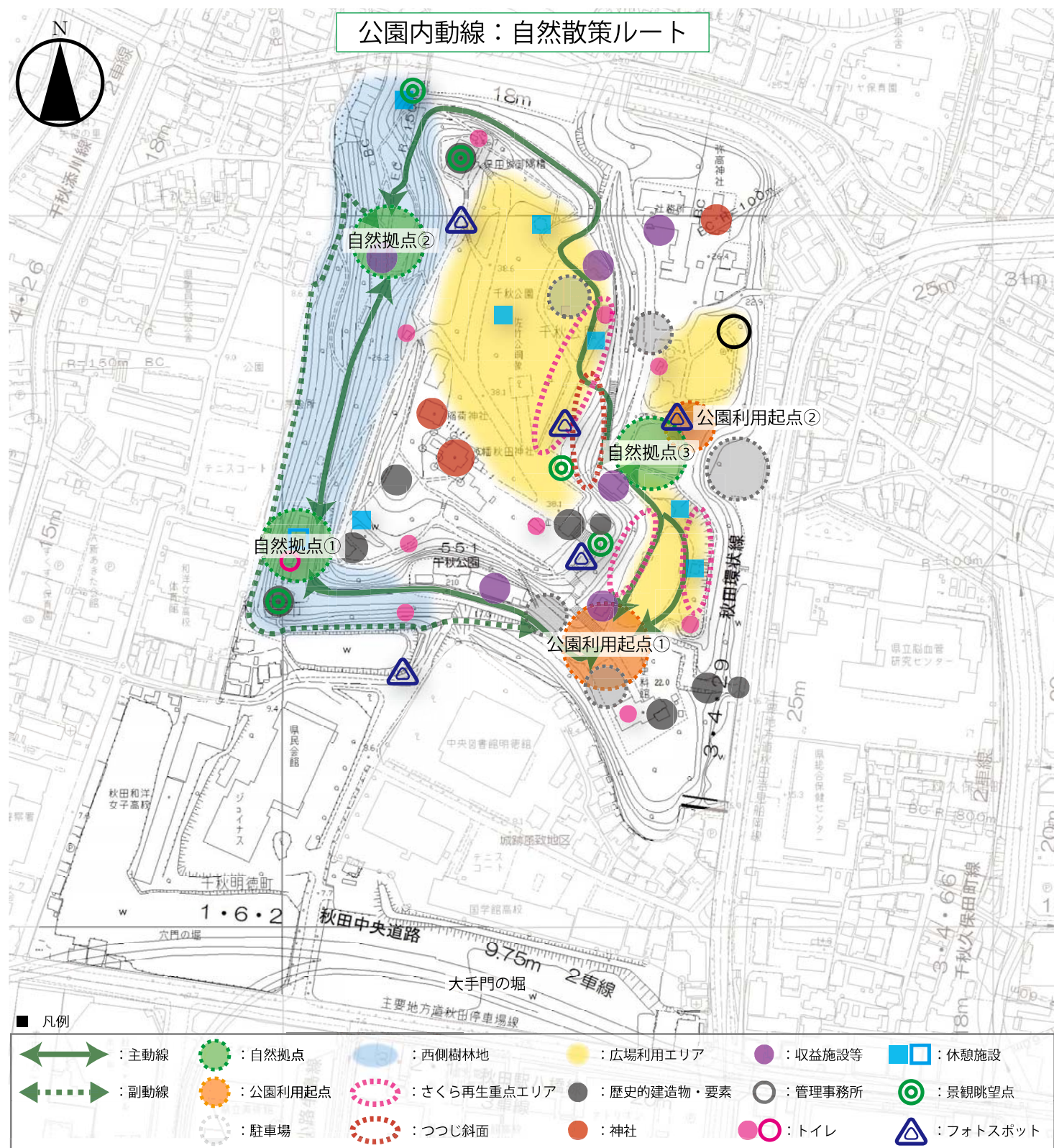
| 拠点名称 | 見どころ・施設等 |
|------------------|-------------------------|
| ◇自然拠点① 公園管理事務所跡地 | トイレ・休憩施設・自然解説板・案内板 ほか |
| ◇自然拠点② あやめ園周辺 | あやめ園・自然解説板・案内板・あやめ茶屋 ほか |
| ◇自然拠点③ 胡月池周辺 | 胡月池（ハス・藤）・自然解説板・案内板 ほか |
| ◇西側樹林地 | 樹林・自然解説板・案内板・散策路 ほか |
| ◇さくら再生重点エリア | さくら |
| ◇つつじ斜面 | つつじ |

■ 歴史散策ルート

公園利用起点から、以下に示す歴史拠点等を経由するルートを設定します。

| 拠点名称 | 見どころ・施設等 |
|----------------|----------------------|
| ◇歴史拠点① 佐竹史料館 | 佐竹史料館・歴史解説板・案内板 ほか |
| ◇歴史拠点② 表門周辺 | 表門・御物頭御番所・歴史解説板 ほか |
| ◇歴史拠点③ 久保田城御隅櫓 | 久保田城御隅櫓・案内板 ほか |
| ◇歴史拠点④ 黒門周辺 | 黒門・唐金橋跡・歴史解説板・案内板 ほか |
| ◇歴史拠点⑤ 御出し書院跡 | 御出し書院跡・歴史解説板・案内板 ほか |
| ◇歴史拠点⑥ 茶室周辺 | 茶室・案内板 ほか |
| ◇歴史拠点⑦ 鐘楼周辺 | 鐘楼・案内板 ほか |

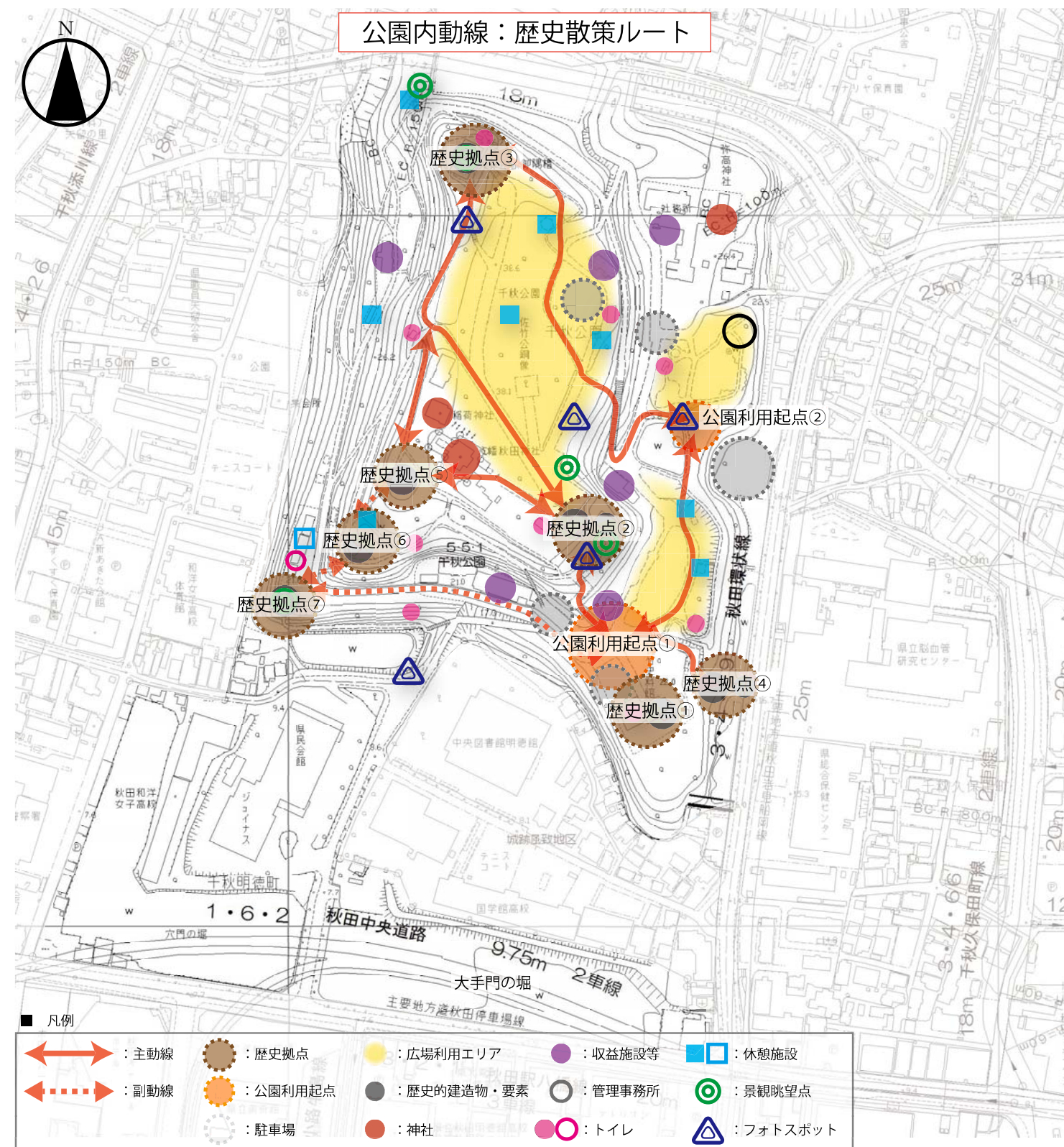
※次頁に動線計画図【歩行者動線：公園内動線】を示します。



●歩行者動線計画：公園内動線【自然散策ルート】

・公園利用起点から、以下に示す自然拠点および豊かな自然が残る西側樹林地内や四季折々の花や緑を経由し、回遊するルートを設定する。

| | |
|-------------|--------------------------------|
| ◇自然拠点① | 公園管理事務所跡地…トイレ、休憩施設、自然解説板、案内板ほか |
| ◇自然拠点② | あやめ園周辺…あやめ園、自然解説板、案内板、あやめ茶屋ほか |
| ◇自然拠点③ | 胡月池周辺…胡月池（ハス・藤）、自然解説板、案内板ほか |
| ◇西側樹林地 | 樹林、自然解説板、案内板、散策路ほか |
| ◇さくら再生重点エリア | さくら |
| ◇つつじ斜面 | つつじ |



●歩行者動線計画：公園内動線【歴史散策ルート】

・公園利用起点から、以下に示す歴史拠点を中心に、回遊するルートを設定する。

| | |
|--------|---------------------------|
| ◇歴史拠点① | 佐竹史料館…佐竹史料館、歴史解説板、案内板ほか |
| ◇歴史拠点② | 表門周辺…表門、御頭御番所、歴史解説板、案内板ほか |
| ◇歴史拠点③ | 久保田城御隅櫓…久保田城御隅櫓、案内板ほか |
| ◇歴史拠点④ | 黒門周辺…黒門、唐金橋跡、歴史解説板、案内板ほか |
| ◇歴史拠点⑤ | 御出し書院…御出し書院跡、歴史解説板、案内板ほか |
| ◇歴史拠点⑥ | 茶室周辺…茶室、案内板ほか |
| ◇歴史拠点⑦ | 鐘楼周辺…鐘楼、案内板ほか |

第5 再整備計画

基本方針① 緑や花と風景の再生による、新たな魅力の創出

1 四季折々の草花による花修景

(1) さくらの再生

千秋公園のさくらは、明治25（1892）年「有終会」の寄附によって植えられた1,170本に由来し、そのほとんどがソメイヨシノです。その寿命は60年とも言われ、長い年月の経過により、当初植栽されたさくらをはじめとして、衰退が顕著となっています。これまで、施肥を中心とした土壌改良や樹木修復等により樹勢回復に努めてきましたが、明らかな成果が見えない状況であり、既存のさくらを残す手法では限界となっています。

このことから、さくらの名所として後世に引き継ぐため、さくらの植え替えなど将来を見据えた再生の取組を推進します。

ア さくらの更新

「秋田市さくら再生基本計画」（平成22年度）に基づき更新するものとし、更新対象樹木は、花芽の数等による評価・衰退状況および景観構成を踏まえ総合的に判断し選定します。

更新は、いや地現象※を考慮し、前年度に伐採抜根と土の入替えを行い、翌年に新たな樹木を植栽する更新サイクルを確立し、年間30本を目標にさくらの更新を行います。これにより、6、7年後には、400本近くある衰退木の約半数が更新され、本丸や市民広場を中心にさくらの再生を図ります。

新たに植えるさくらは、ソメイヨシノに限らず、寿命が長く、開花時期が異なるヤマザクラやシダレザクラとするなど、長期的にさくらを楽しめる工夫を行います。

また、樹高の高い更新木の調達には、価格だけでなく、調達自体も困難であることから、園内の一角に、あらかじめさくらを植樹しておき、計画的に更新することも検討します。

イ さくら再生重点エリアの設定

公園全体のさくらを短期間で更新等するのは難しく、さくら再生事業の効果もわかりづらいことから、景観的に効果的で、公園利用者の目にとまりやすい、千秋公園を代表するさくらのエリアを「さくら再生重点エリア」として設定し、看板等に

※同じ植物や近い仲間の植物を連続して同じところに栽培すると、生育が悪くなる現象。

よる周知により市民の皆様の理解を得ながら、老木の更新、施肥の強化および支障木の撤去を重点的に実施します。

さくら再生重点エリアは、次の2箇所とします。

- 本丸さくらのトンネル 御白州跡から香雲亭
- 市民広場周辺

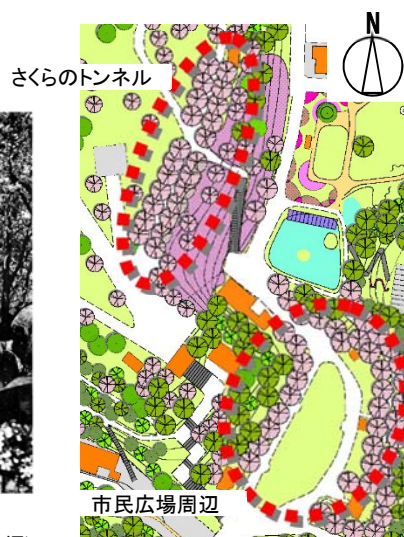


さくらのトンネル



本丸のお花見風景

出典:写真集秋田(今村義孝編)



ウ ワークショップの開催とさくらサポーターの育成

さくらの再生に関する取組の理解と周知を目的として、施肥体験等のワークショップを実施します。また、ワークショップの開催により、さくらに関心を持ち、保全の知識を持つ人を増やすことで、ひこばえの除去など日常管理を手助けしてもらえるボランティア（さくらサポーター）を育成し、市民協働による継続的な管理ができる仕組みの構築を図ります。

エ さくら再生検討組織（トラスト）の常設

さくらの状況は一刻一刻と変化しており、さくら再生整備の検討は一過性のものに止まらず、有識者を含めた検討組織を常設し、さくらの変化に対応した再生整備ができる体制を構築します。

オ シンボルツリーの設定とPR

明治25（1892）年に有終会の寄附により植えられたといわれる久保田城御隅櫓の北側の「初代のさくら」などをシンボルツリーとして設定し、新たな回遊拠点として案内板等によりPRを図ります。

併せて、将来のシンボルツリー候補の植樹を市民広場など、公園利用者の目にとまりやすい場所で検討します。

(2) ハスの適正管理

- ハスの良好な生育のため、草や藻の除去、繁茂した株の除去、花たくの刈り取りなど適正な管理を継続します。
- 水質や生態系と景観とのバランスに配慮した、ハスの育成を図ります。



大手門堀のハス



満開のハス



花たくの刈り取り作業の様子

(3) つつじ、藤の育成・拡大

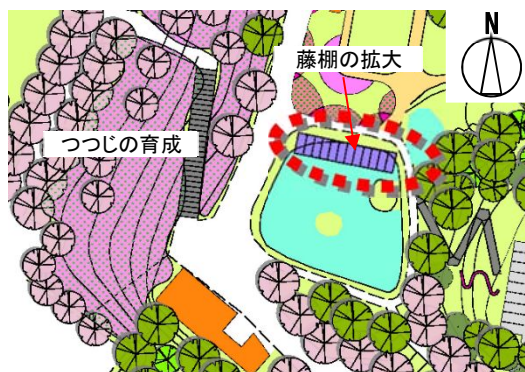
- 千秋公園の代表的な花の一つである、つつじの育成・管理を継続します。
- かつてのように胡月池の藤棚を拡大します。



明治期の胡月池の藤



胡月池



◆胡月池の藤棚の拡大

かつての藤棚のように胡月池の藤棚を拡大します。

(4) その他の草花による演出（胡月池北側など）

- 胡月池北側部分に、児童遊園地からジャーマンアイリスを移植するなど、草花が楽しめる花壇を整備します。
- アヤメやコウホネなど園内の各所で咲く草花の育成・管理をします。



ジャーマンアイリス



あやめ園



◆胡月池北側 花壇
馬場のモミ（保存樹）の周辺に花壇を整備し、新たな魅力を創出します。

2 眺望景観や開放的な空間の確保

(1) 景観眺望点（フォトスポット）の整備

- 優れた景観が望める場所を景観眺望点（フォトスポット）として、場所の明示や案内板を設置し、支障木のせん定などの整備を行います。



秋田市街の眺望



既存フォトスポット(表門裏)



◆景観眺望点（フォトスポット）の整備

(2) 景観阻害要因の改善と開放的な空間の確保

- 表門を見た際の視線阻害となる樹木をせん定します。
- 本丸広場の衰退木、久保田城御隅櫓への視線阻害となる樹木を伐採・せん定します。
- 久保田城御隅櫓、御出し書院およびあやめ茶屋付近からの眺望阻害となる樹木を伐採・せん定します。
- 巨木等の景観樹木については保全し、景観阻害となる場合のみ、樹形や樹勢を損ねない最低限のせん定にとどめます。



売店裏の樹木



あやめ園南側 四阿



3 堀の保全、水質浄化

(1) 内堀、黒門の堀の水質浄化

- 内堀や黒門の堀について、堆積物の除去や外堀等からの導水量を増やすことなどにより水質の改善を図ります。



内堀



黒門の堀

(2) 堀の保全と適切な維持管理

- 現在行っている水質浄化対策を継続し、水質の保全を図ります。
- 外堀（穴門の堀、大手門の堀）を保全し、定期的な清掃や水質調査等の適切な維持管理をします。
- 内堀・黒門の堀を保全し、定期的な清掃や水質調査等の適切な維持管理をします。

4 自然フィールドミュージアム

千秋公園の西側の斜面緑地は、市街地に残る貴重な自然環境となっており、その中に整備された散策路は、自然散策路やジョギングコースとして市民に親しまれています。しかしながら、人が自然と親しみ、憩いや休息する空間として十分に整備されていないことから、斜面緑地の豊かな自然環境を保全するとともに、自然に親しむ「自然フィールドミュージアム」として再整備を推進します。

(1) 拠点および回遊ポイントの整備

自然ゾーンでは、鐘楼の改修と併せて公園管理事務所移転後の跡地を休憩施設（ベンチ、トイレ）の整備により松下門跡や市民広場からの公園利用者の利用拠点として整備します。

また、千秋公園で観られる花としては、さくら、つつじ、ハスなどが有名ですが、それ以外にもアヤメ、コウホネ、ナニワズ、メタセコイアなどの草花や巨木、千秋公園八景（勝平得之による版画作品）の視点場やシンボルツリーなど、自然ゾーンの見所を回るモデルルートの設定、回遊ポイントの整備を行います。



あやめ茶屋



現 公園管理事務所



(2) 自然解説板、案内板の整備

自然ゾーンの魅力を公園利用者に伝えるため、都市の中に残る貴重な二次林や植生の解説、珍しい草花や巨木の解説など、自然解説板を整備します。また、鐘楼付近とあやめ園に、自然ゾーンの見ごろマップやモデルルートなどを示した案内板を新たに整備し、回遊性を高める工夫を行います。

(3) 樹林地適正管理と植生回復

公園利用者の安全性に配慮し、斜面沿いの枯損木や衰退木は、適宜伐採を行うとともに、林床に生育する珍しい草花の生長を阻害するようなササ類が繁茂する場合には、樹林地内の開放的な空間の確保と併せて、定期的の下草刈りを実施します。なお、隣接する住宅地などにも配慮（落葉の清掃などの市民負担の低減）した開放的な空間の確保を図ります。

5 貴重な動植物の保護および管理

(1) 継続的な自然環境調査の実施

- 貴重な動植物・植生等の自然環境調査を実施します。
- 継続的な調査により、自然環境の変化を把握し、保護・保全対策に活用します。

(2) 貴重な動植物の保護、生息・生育環境の保全（外来生物対策含む。）

- 千秋公園に生息する貴重な動植物を保護するため、生息・生育環境を保全します。
- 新たな公園整備の際には、生息・生育環境に配慮した整備とします。
- 市民へ情報提供を行い、貴重な動植物の保護に関心をもってもらうとともに、現在の動植物の生育に大きな影響を与える外来生物が進入しないよう、注意喚起を促します。

基本方針② 歴史的遺構の保全と継承、さらなる活用

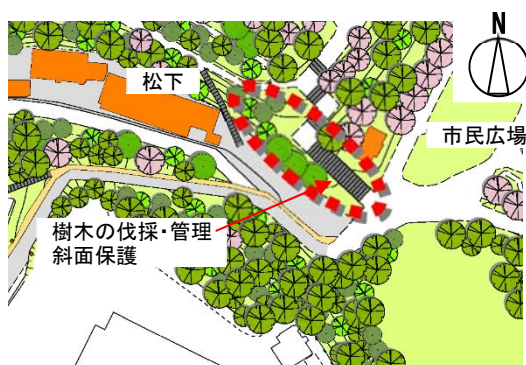
1 城跡の地形保全（土塁、縄張り等の保全・管理）

(1) 樹木の伐採・管理（地形保全対策）

- 丘陵地形を活かした城跡としての特徴的な土塁、縄張り等を保全するため、根系が地上部に露出して土砂流出の要因となっている樹木を伐採します。



大坂の土塁

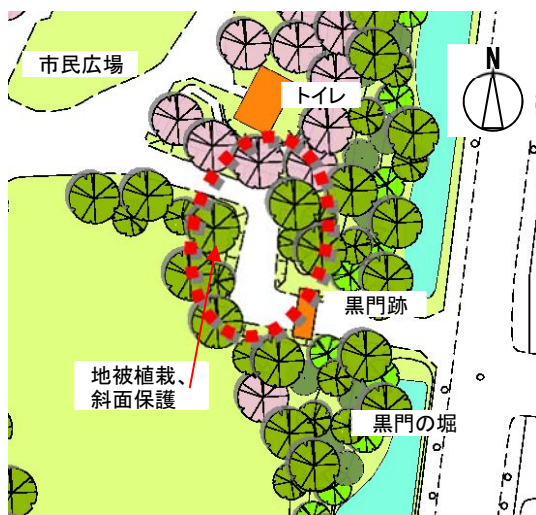


(2) 土砂流出抑制植栽、斜面保護

- 土塁の表土の流出が懸念される箇所へ、植物の良好な生育のための緑化基盤材および地被植栽を行い、土砂流出の抑制を図ります。



黒門跡付近の土塁



2 歴史的建造物の整備

◆大坂周辺整備

(1) 松下門跡の解説板設置（※復元は行わない）

- 大坂にかつて位置していた松下門の歴史調査結果を記述した解説板を設置します。

(2) 歴史性を演出する施設の整備

- 久保田城への登城ルートの一つである中土橋通りと大坂の境に、歴史を演出する門をイメージした施設を整備します。

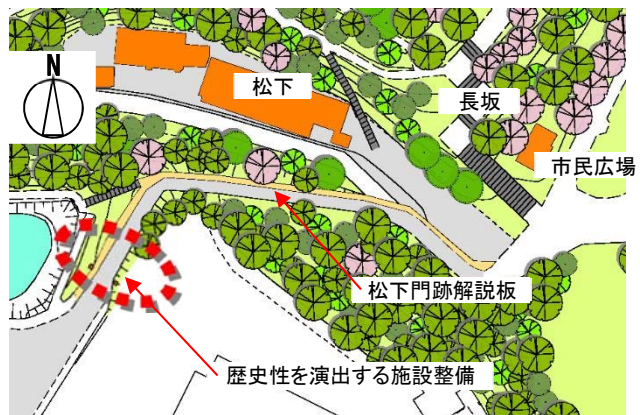


大坂の入口付近(明治末期)

出典:写真集秋田(今村義孝編)



門(冠木門(かぶきもん))のイメージ



◆本丸の再整備

(3) 御出し書院の平面表示による復元

- 本丸南西隅の高台に建てられていた御出し書院からの眺望は優れ、天守の代わりをしたといわれています。歴史的資料をもとに、部屋割りなどがわかるよう建物の平面表示による復元をします。



明治初年の穴門橋と御出し書院



◆黒門周辺整備

(4) 黒門の整備

- 歴史調査をもとに、現在、礎石がある位置に黒門を整備します。

(5) 唐金橋跡整備（※復元は行わない）

- 唐金橋は正確な資料が存在しないため、土橋のまま高欄を模した防護柵を整備し、かつての正式な登城ルートとして、大手門通りから視認しやすいデザインとします。

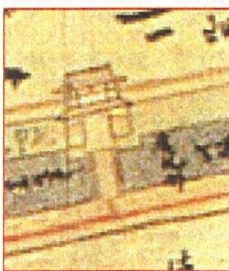


黒門跡



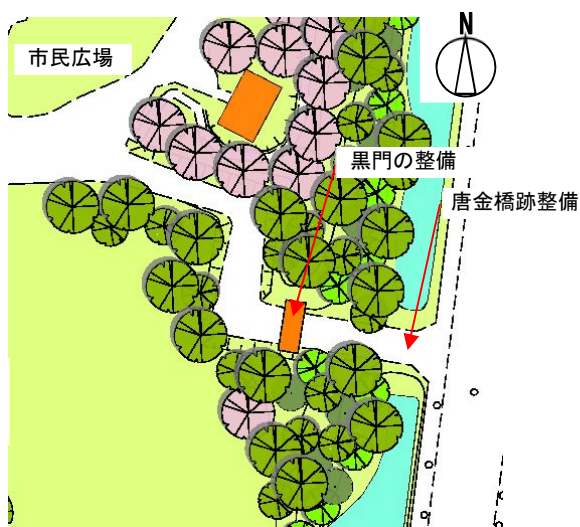
唐金橋跡付近

【黒門・唐金橋 拡大】



出羽国秋田郡久保田城画図
正保年間
(国立公文書館内閣文庫蔵)

出典:「黒門・唐金橋」
再建懇談会報告書



3 歴史的景観要素（鐘楼・茶室等）の改修・整備

(1) 鐘楼の改修

- 老朽化した鐘楼を公園のシンボルの一つとして改修します。
- 歴史的景観に配慮したデザインとします。
- 鐘楼は周囲から視認でき、景観の添景となる箇所に配置します。



時鐘

出典:写真集秋田
(今村義孝編)



鐘楼



改修イメージ
沼田城
(沼田市ホームページ
より引用)



(2) 茶室（宣庵）の改修

- 茶室等の老朽化が進んでいる建築物を改修します。
- 茶室や手水鉢の由来等を記述した解説板を整備します。



茶室「宣庵」



手水鉢



待合

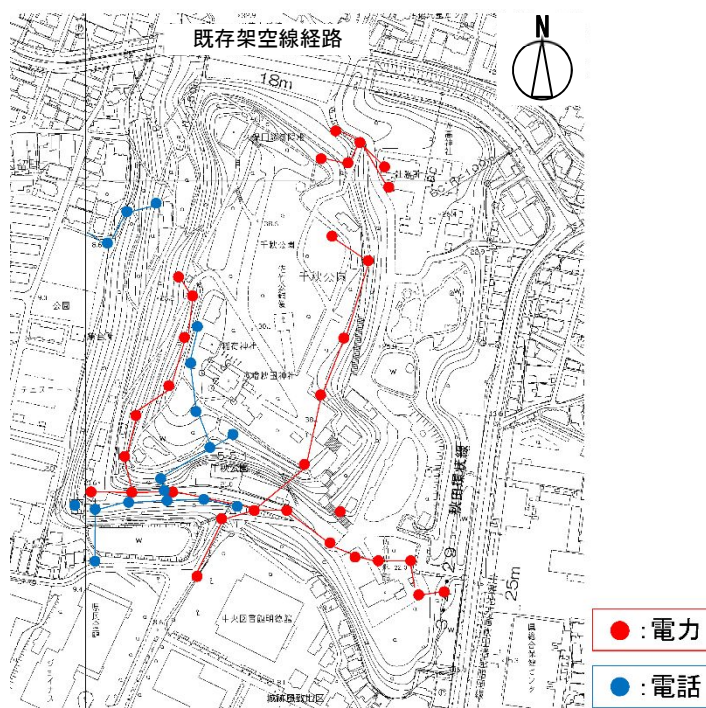
4 景観阻害要素（支障木・施設建造物等）の改善

(1) 景観眺望・阻害要因の改善

- 景観阻害要素となっている樹木や電線等を整理します。



園内の枯損木



(2) 私設建造物のデザインコントロール

- 公園内に立地する私設建造物など、景観と調和のとれたデザインへの誘導を図ります。

5 佐竹史料館の改築

(1) 佐竹史料館の改築

ア 整備方針

施設の老朽化や狭あい化が進む佐竹史料館を、郷土学習の推進や文化遺産の保存・公開の拠点として改築し、歴史を活かした観光振興にも寄与する施設として整備します。

イ 改築の位置

佐竹氏の歴史を学ぶ施設として、久保田城跡との一体感や第2期秋田市中心市街地活性化基本計画における芸術文化ゾーンとの連携を図るため、千秋公園内に整備することとし、景観的な変更など史跡や名勝としての魅力や価値を損なわない場所であり、主要なアプローチである中土橋側と黒門側の2方向からのアクセスに優れた現在地において改築します。

ウ 施設配置と構造

千秋公園の拠点施設とするため、来園者から視認しやすい建物配置とします。

また、構造については、収藏品管理等を考慮して鉄筋コンクリート造を基本とし、公園内の景観と調和したデザインとします。

(ア) 展示機能：常設展示室、企画展示室 等

実物史料中心の内容に加え、ジオラマ、映像等により、佐竹氏の歴史、久保田城の特長、城下町の成り立ちを分かりやすく紹介する展示とします。企画展はほかの博物館等と連携した展示とすることにより、リピーターを増やし集客力の高いものとします。

(イ) 収蔵機能：収蔵庫、収蔵庫前室、荷解こん包室 等

(ロ) 教育普及機能：講座や講演会を開催するための講堂

(ハ) 調査研究機能：資料調査室、書庫 等

(ニ) 管理機能：事務室、機械室、ボランティア活動スペース 等



6 久保田城御隅櫓の魅力向上

(1) 久保田城御隅櫓の魅力向上

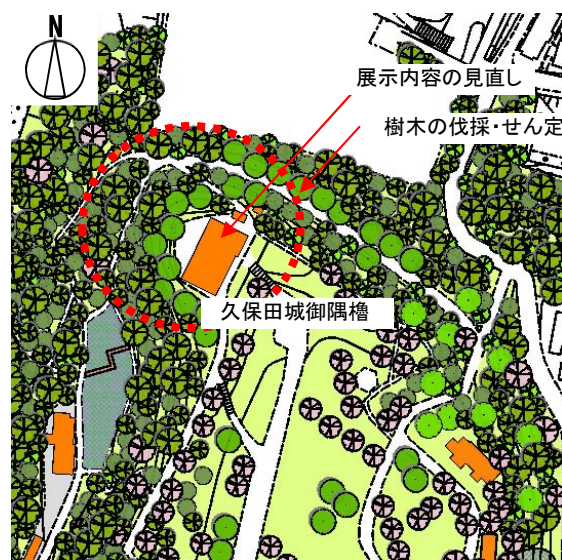
久保田城御隅櫓は、久保田城本丸北西の隅に位置していた見張り場と武器庫の役目を持った櫓を、市制100周年を記念し、展望室を加えて復元したものです。

久保田城御隅櫓内の展示室では、現在、久保田城や秋田藩主佐竹氏について、歴史パネルなどにより紹介しておりますが、佐竹史料館の改築に合わせ、展示内容の見直しを行い、楽しみながら学べる展示を目指します。

また、展望室からの眺望は、久保田城御隅櫓の魅力の一つであり、生長により眺望阻害となる樹木については、伐採・せん定します。



久保田城御隅櫓



7 歴史フィールドミュージアム

久保田城の土塁と堀の構造や配置の妙は、ほかの城に優るとも劣らないものとなっています。久保田城御隅櫓や表門の復元により、歴史的な空間づくりが進められていますが、正確な歴史資料の不在により、復元できないものも多くあります。今後、黒門の整備、唐金橋跡の整備を進めるとともに、佐竹史料館の実物展示・模型展示と公園内の土塁や遺構を実際に屋外で観賞できる仕組みを整備し、公園全体を歴史フィールドミュージアムとして位置づけ、土塁と堀でできた久保田城の魅力を広く市民や観光客に伝えます。

(1) 歴史解説板の充実

改築する佐竹史料館と連携して、来館者が公園内の史跡を実際に確認できるようにQRコード等を歴史解説板に掲載し、これまでに調査・研究されてきた地図や絵図、歴史資料アーカイブをスマートフォン等に表示することを検討します。

また、モデルコースを示したパンフレットや、公園内の史跡をスタンプラリー形式で回れるカードの作成などを検討します。

ほぼ土塁と堀で構成されている久保田城の縄張りがわかる箇所に歴史解説板を整備します。特に、曲輪やます形など縄張りの妙をイラスト等で分かり易く解説します。



黒門のます形



黒門のます形を上部から



帯曲輪門跡



表門礎石 解説板



御物頭御番所 解説板



久保田城御隅櫓 解説板



標柱

基本方針③ 多様な目的への配慮、だれもが利用しやすい公園づくり

1 駐車場の拡充

現在の公園駐車場は狭く、公園利用者数に適した規模となっていないため、駐車場の増設に関する市民の要望が非常に多くなっています。このことから、城跡としての地形の保全（土塁）を図りつつ、園内に駐車スペースを確保するため、現在、公園の東側にある児童遊園地を新たに駐車場として整備します。また、大型バスについては、近隣に大型バス駐車場が不足していることから、既存のバス専用駐車場を現状のまま利用するものとし、より利活用されるようにPRに努めます。

なお、児童遊園地の機能は、胡月池北側への再配置を検討します。

(1) 駐車場の拡充

公園利用者の利用が多く、今後、公園管理事務所を移転・再整備する市民交流ゾーンの東側（バス専用駐車場の北側で、現在、児童遊園地として利用）に、新しく駐車場（有料）を整備します。なお、駐車場の出入口は、隣接するバス停との離隔に配慮します。

また、既存駐車場については、老朽化している機器等の再整備を行います。



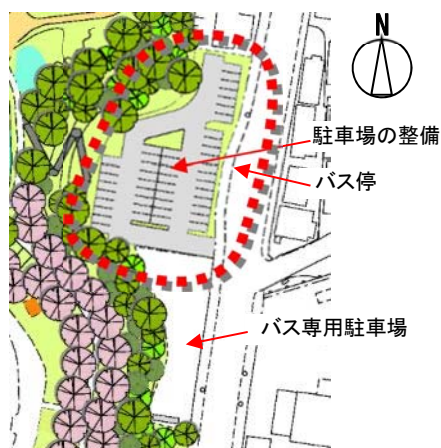
駐車場



児童遊園地



バス専用駐車場



2 利用しやすい遊び空間の充実

現状では、子どもや親子連れの利用が少なく、市民からは子どもが遊べる遊具や遊びの空間の整備の要望が高まっています。現在児童遊園地がある箇所を駐車場として整備した上で、児童遊園地の機能を胡月池北側に再配置し、新たな遊具の整備を行い、市民広場と併せて、子どもや親子連れが遊びやすい空間の充実を図ります。

(1) 児童遊園地の再配置

駐車場の施設と併せて、児童遊園地の機能を胡月池北側（馬場のモミ付近）に再配置します。また、遊具のデザインは城跡公園の景観に配慮したものとします。

(2) 自然や地形を活かした遊具の整備

千秋公園では、自然や地形の豊かさを活かした遊具のニーズが高いことから、アスレチック等の遊具整備を検討します。また、新たに整備する児童遊園地と駐車場の利用動線の強化を図るため、斜面地形を活かした滑り台やアスレチック遊具の整備を検討します。

水はけが悪く生育不良となっている市民広場は、土壌改良や排水改善を行い、快適な芝生とします。

3 アクセシビリティ・利便性に配慮した動線確保

新しく整備する駐車場（現在の児童遊園地）から、市民広場までの動線は、幅が狭くわかりづらい階段となっているため、利用動線の強化を図ります。

(1) 動線の整備や拡幅

ア 動線の整備（自然拠点と歴史拠点の結節）

自然拠点（例：あやめ園周辺、公園管理事務所跡地）や歴史拠点（例：御出し書院）とを結ぶ動線（園路）を整備し、園内の周遊性を高めます。

イ 動線の拡幅（新設駐車場から市民広場へのアクセス）

新設駐車場から市民広場へ接続する階段を拡幅し、公園へのアクセシビリティを強化します。



既存階段

(2) 二の丸エントランス整備（車寄せ・駐車場）

- 障がい者や高齢者、幼児連れの利用者のアクセス性に配慮し、二の丸への導入部分に車寄せを整備します。高齢者等を降ろした後は、新設駐車場等へ誘導する運用とします。また、公園のエントランスにふさわしい景観とします。
- アクセス性に配慮し、車寄せ横に障がい者用および観光タクシーの駐車場を整備します。



市民広場 南側



(3) 二の丸から本丸のアクセス性向上

- 障がい者、高齢者等の本丸へのアクセス性向上のため、本丸北側に障がい者等駐車場を確保します。



北側斜路



(4) 動線のユニバーサル化（階段・スロープ手すり整備）

- 新設駐車場西側斜面階段は、ユニバーサルデザインに配慮し、手すりを整備するとともに幅員を拡幅します。
- 園内の階段やスロープは「都市公園の移動円滑化整備ガイドライン」に基づき、手すりを整備します。



西側斜面階段



4 案内機能の強化

(1) 総合案内板、誘導標識の見直し

- 外国人利用に配慮し、近年需要が高まっている総合案内板の外国語表記や内容を見直します。
- 整備時期の違いによる様々なデザインの総合案内板は、改修の際に統一したデザイン方針に基づき整備します。
- 公園アプローチ動線や回遊性を考慮した案内標識について、周辺施設と連携を図りながら整備します。
- スマートフォンやタブレット等を活用した案内システムの導入を検討します。



総合案内板(市民広場)



総合案内板(大坂入口)



誘導標識(園内各所)

(2) 新たなフォトスポットの設定・広報

- 既存のフォトスポットをインターネット、SNS 等を通じて広報します。
- 再整備される黒門や鐘楼、樹林地からの眺めの良い箇所を新たなフォトスポットとして設定します。



6 便益施設の魅力向上

(1) 売店および私設店舗の魅力向上

- 公園利用ニーズに合わせ販売商品の見直しやPR等により、魅力向上に努めます。
- カフェやレストランなど飲食施設の整備は市民ニーズが高いため、私設店舗と協力して、市民広場へのオープンカフェ、ケータリング等を検討します。



売店(市民広場)

基本方針④ 中心市街地との連携、人々の交流拠点づくり

1 中心市街地にある他施設との連携

(1) 周辺駐車場等の利活用の促進

- 公園内に不足する駐車台数を補うため、中心市街地駐車場マップなどを活用し、周辺にあるエリアなかいち駐車場などの利活用や新設される県・市連携文化施設の駐車場との連携を図ります。



中心市街地駐車場マップ

(2) 中心市街地と連携したイベントへの協力

- 県・市連携文化施設や旧県立美術館で行われる芸術文化イベントなど、中心市街地で開催されるイベントに協力（広告や会場としての利用等）していきます。

(3) 景観（建物）との調和

- 新設される県・市連携文化施設の建築物の外観は、公園の景観と調和のとれたデザインとするよう関係機関と調整を図ります。

2 公園エントランスの改修

(1) エントランスの整備（中土橋通り、松下門跡、東側ポケットパーク、黒門跡）

- エントランスとしての機能を強化するため、中土橋通りと大坂の境に歴史を演出する門をイメージした施設を整備します。
- JR秋田駅側の入口に位置する東側ポケットパークに、千秋公園（久保田城）であることを示すとともに、中土橋や黒門へと誘導するサインを整備します。
- かつての正式な登城ルートとして、エントランス機能の強化と歴史的価値の向上を図るため、黒門と唐金橋跡の整備を行います。



大坂付近



黒門跡



(2) 冬季の利用促進（中土橋から大坂、黒門跡の融雪化）

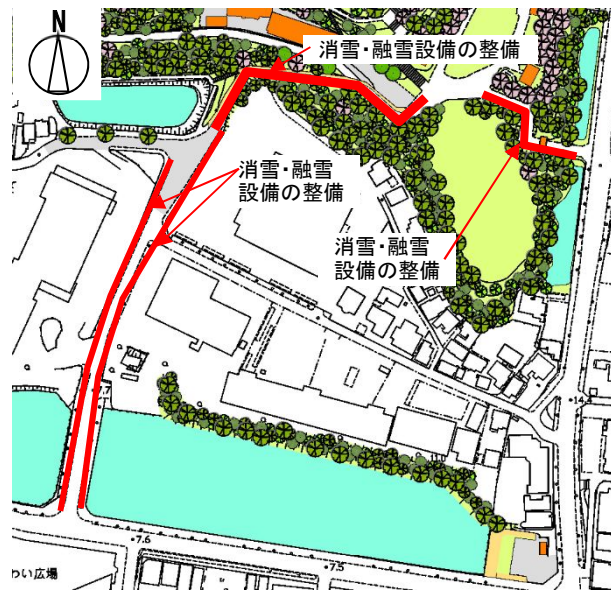
大坂および唐金橋跡から黒門、市民広場へのルートに、冬季の積雪・凍結時にも公園へアクセスしやすいように消雪・融雪設備を整備します。併せて、大坂周辺の駐車場（コインパーキング）も冬季利用できるように改修を行います。



大坂



黒門



(3) 内堀周辺の景観整備

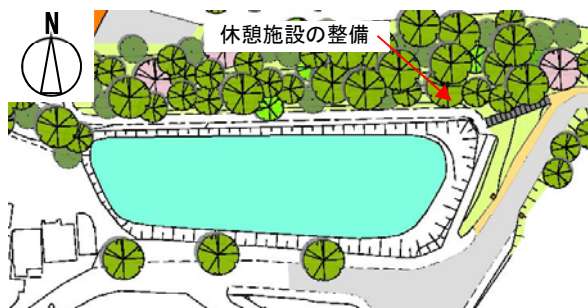
- 内堀周辺を公園エントランスにふさわしい景観とするため、園路、階段等の施設を再整備します。また、トイレを撤去し、水景を楽しむことができ、水辺の添景ともなる休憩施設を整備します。



内堀



総合案内板とトイレ(大坂入口)



園路、階段の再整備、休憩施設の整備を実施し、公園エントランスにふさわしい景観とします。

3 親水空間の充実

外堀（大手門の堀、穴門の堀）は、千秋公園だけでなく中心市街地の景観を特徴づける親水空間となっています。水質浄化対策や東側・西側のポケットパークの整備を実施しており、ハスの開花時期には多くの市民や観光客を楽しませています。

秋田駅からのアクセス拠点として東側ポケットパークを位置づけ、中土橋通りへのアクセス機能の強化とハス観賞場所としての遊歩道を整備します。

(1) ポケットパーク（親水広場）からつながる遊歩道（デッキ）の整備

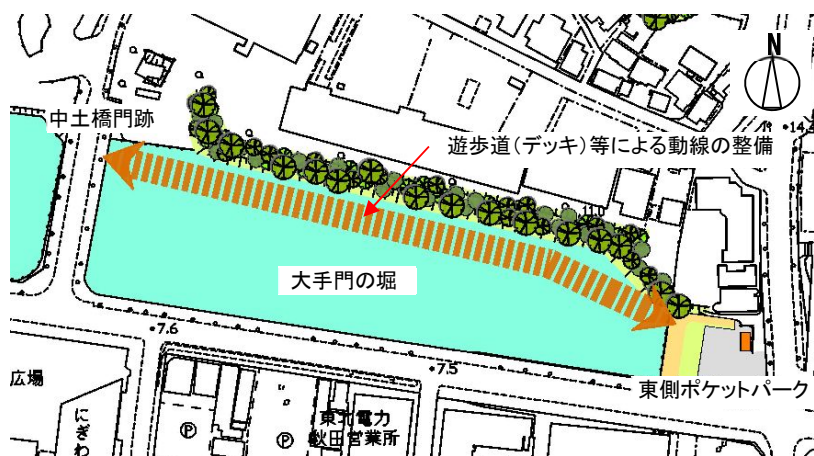
- 大手門の堀内に東側ポケットパークから中土橋門跡へとつながる遊歩道(デッキ)を整備し、歩行者動線を強化するとともにハスを観賞できる場とします。
- 遊歩道(デッキ)は、周辺の景観と調和のとれたデザインとします。



鷹匠町を望む
出典:写真集秋田(今村義孝編)



東側ポケットパーク



(2) ハスの有効活用

- ハスの花たぐいの提供など、市民に親しまれるものとしての有効活用を検討します。

4 外堀周辺の景観の向上

(1) 外堀沿いの散策路の整備

- 関係者の理解を得ながら、外堀沿いの住宅および商店を移転し、西側ポケットパークから連続する散策路を整備し、外堀周辺の景観を向上させます。



外堀周辺



外堀沿いの住宅および商店を移転し、外堀沿いに散策路を整備します。

基本方針⑤ 公民連携による公園の運営マネジメントの推進

1 公園運営・維持管理機能の強化

(1) 公園管理事務所の移転・再整備

公園事務所の建物は、老朽化の進行と立地場所の状況から、適正な維持管理や多様な公園ニーズに対応することが困難となっています。公園の利用者が多く、維持管理箇所が多い市民広場、胡月池の北側に移転・再整備することにより、公園運営・維持管理機能の強化を図ります。

- 老朽化した公園管理事務所を胡月池北側に移転・再整備します。
- 公園利用者との交錯が少ない北側からの動線を管理車両動線とします。
- 千秋公園内の自然や緑化に関する情報を発信する機能を付属させます。



(2) 公民連携・公公連携による管理体制の強化

- 公園管理運営については、NPO およびボランティア組織等との協働・連携を図ります。
- 公園内の施設については、史跡や環境など管理する分野が多岐にわたることから、庁内の関連部署と連携を図りながら管理体制を強化します。
- 指定管理者制度・Park-PFI 制度等の民間活力導入検討に伴う将来的な公園管理運営に携わる関係者の増加や複雑化を見越し、行政・民間事業者・市民ボランティア等多様な関係者間の調整・協働を目的とした連絡協議会（仮）の設置を検討します。

久保田城址歴史案内ボランティアの会



| | |
|-------|---|
| 地区名 | 秋田市 |
| 概要・内容 | 佐竹史料館および、久保田城（千秋公園）の歴史的経緯、地跡、秋田の発展などを中心に案内。受付時間 9:00~15:30※希望日の2カ月前から7日前までに予約 |
| 所要時間 | ご希望の時間帯でご案内いたします。 |
| 料金 | 無料佐竹史料館入館料：一般100円 高校生以下無料 御膳場入館料：一般100円 高校生以下無料 |
| 問合せ先 | 佐竹史料館 TEL018-832-7892 FAX018-832-9524※2ヶ月前から1週間前までに電話かFAXで要予約 |
| 関連URL | http://www.city.akita.akita.jp/city/ed/st/ |



NPO 秋田千秋はすの会

私たちの団体紹介・活動内容


私たちは千秋公園のお地の「蓮」を活用した特色のあるイベントを企画・実施することで中心市街地の活性化を図ることを目的に活動しています。また「蓮」の活用方法について研究し、その内容を広く伝える活動に取り組んでいます。

- ・毎年夏に「蓮フェスタ」を開催
- ・蓮をまるごと使った作品制作・展示
- ・蓮の果托を活用した花飾り制作講習会
- ・蓮についての講演・学習会等を開催しています。

ひとことPR

「蓮をまるごと楽しむ」をモットーに楽しく活動しています。

また、一緒に活動して頂ける新規会員を募集しています。興味のある方はお気軽にお問い合わせください。



代表者 鈴木 美保子
住 所 〒010-0003 秋田市東通8丁目1-88
連絡先 ☎018-831-5373

(平成28年7月24日作成)

園内で活動するNPO・ボランティア団体

2 民間活力の導入

中心市街地や芸術文化施設との相互利用を促し、人々の交流の拠点としての機能を充実させていくためには、市民の多様なニーズに応え、特に要望の多い駐車場や飲食施設の整備、イベントの開催等柔軟な活用に向けた運用改善など、様々な方策を取っていく必要があります。

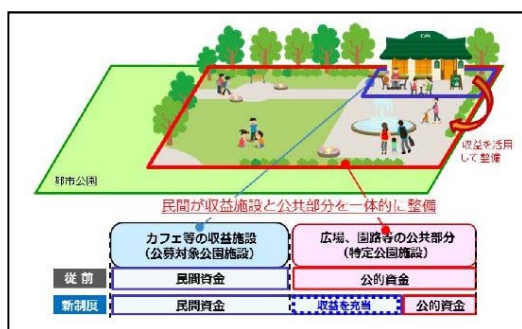
千秋公園では、既に売店や私設店舗などが立地していますが、老朽化や市民ニーズとの乖離が見られ、将来にわたる利用促進に当たっては改善が必要と考えられます。

一方で、公共投資の縮減化が必要な昨今の現状を踏まえると、財政・人材の面から、これまでと同様の公共の努力のみでの施設整備・運用には限界があります。今後、指定管理者制度の導入、都市公園法に基づく公募設置管理制度（Park-PFI）や設置管理許可などの様々な公民連携の手法の導入により、民間資金やノウハウを活用した公園整備および維持管理を積極的に推進することで、公園全体の持続可能な魅力向上を図ります。

(1) 民間活力による収益施設の導入検討（Park-PFI等）

飲食店、売店、駐車場等の市民ニーズの高い施設について、民間活力の導入（指定管理者制度、Park-PFI等）による施設整備・維持管理運営の実施を検討します。民間活力の導入に当たっては、既存の売店・私設店舗の有効活用や機能の拡大、周辺園地との一体的な維持管理との一括委託など、民間事業者の参入を促進するべく多様な手法を視野に検討を進めます。

また、Park-PFIなど施設整備を伴う可能性のある手法の導入に当たっては、文化財保護との両立を念頭において進めます。



Park-PFIのイメージ図

図出典：
都市公園の質の向上に向けた Park-PFI 活用ガイドライン
(平成 29 年 国土交通省都市局公園緑地・景観課)



他地域事例：愛知県名古屋市名城公園・tonarino
(公園内に設置された民設民営の複合施設と広場の一体整備事業)

(2) 多様なソフト事業（イベント開催等）の推進

千秋公園の情緒あふれる歴史的な空間（本丸跡周辺）などを活かした、歴史的・芸術文化的なイベントの開催を推進します。

イベントの開催には、中心市街地の商店街をはじめとした民間企業などと連携した出店や催し物など、魅力的な公園づくりを推進します。

また、中心市街地の主要拠点の一つとして、隣接する「エリアなかいち」等と連携した利用促進および観光客誘致を推進します。

観光客誘致を目的としたソフト事業の一つとして、外国人観光客にも知名度が高い秋田犬等の活用を検討します。

(3) 柔軟な運用による公園の利活用の誘致

公園利用の様々なニーズに対応し利用を促進するため、自然観察会、歴史散策会、写真・映像撮影会、スポーツイベント等の誘致に向け、公園の財産である文化財および自然環境の保護と両立可能なルール等の構築を進めます。

また、芸術文化に関するイベントについて、秋田市都市公園条例に基づく公園内行為許可の運用基準の改正（使用料の減免）などを検討し、積極的な誘致を行います。

(4) さくらファンドの情報発信と充実

- 千秋公園さくら再生基本計画の理念に基づく「千秋公園さくらファンド」の情報発信を継続するとともに、再生のための活動を充実していきます。
- ファンド参加者が継続的な関わりの意識を維持し、公園への愛着と利用の促進に繋がるよう、現在のファンド（寄附）体制を見直しつつ拡大を進めます。

| さくらファンドの魅力向上のための改善例（提案） | |
|-------------------------|---|
| ファンドメニューの多様化 | ・ 生育基盤の改善など基礎的作業に資する従来通りの寄附形式のほか、限定特別枠として更新木植樹時の里親・オーナー制度の導入（プレート設置、植樹祭の実施など） |
| 税優遇以外のリターン提供による個人参加者の誘致 | ・ 伐採木を材料とした記念品の提供など |
| 情報発信の強化 | ・ 年度ごとの整備地の状況や全体の進捗状況の報告 ・ 桜まつりなど季節イベントと連動した情報発信の重点化 ・ 年度ごとの募集時期の限定による PR の集中強化 |

3 情報発信・発信拠点の充実

(1) 園内窓口・情報発信の拠点整備（公園管理事務所）

- 新たに整備する公園管理事務所を、千秋公園内の開花状況や自然観察など、主に公園の自然や花に関する情報発信の主要拠点として位置づけます。
- 花木の見頃時期（さくら・つつじ・アヤメ・ハス・秋の紅葉等）を重点的に、インターネットや園内掲示等を活用した花見頃情報の提供を積極的に実施し、集客力と利便性の向上に努めます。
- ベビーカー・電動車いすの貸出し、AED設置、授乳室の配置など、バリアフリーや緊急時への対応強化を検討します。



季節の鑑賞情報のPR
(国営ひたち海浜公園事例)



公園内での花情報提供事例
(国営武蔵丘陵森林公園事例)

(2) 公園ホームページや公園マップの見直し

- 公園ホームページや公園マップ、既存のQRコードによる情報提供体制を見直します。
- 案内板等へのQRコードの掲載は、道案内のほかに歴史や季節の花など多様な情報提供が行える体制を整えます。
- 民間事業者と連携したQRコード情報の活用を行い、スタンプラリー等多様なイベント・観光事業へ活用できる運営方法を検討します。
- インバウンド対応の一環として、公園ホームページやパンフレット、QRコードを活用した解説標識類の多言語対応を実施します。また、多言語対応実施においては、秋田市観光・イベント情報総合サイト「アキタッチ^{プラス}」の多言語版サイトの活用も検討します。



方向指示サインに敷設されたQRコード

4 公園施設の長寿命化と安全性の確保

(1) 公園施設の長寿命化と計画的な修繕・更新

- 維持管理・修繕コスト軽減のために、公園施設の計画的な修繕・更新をしていきます。

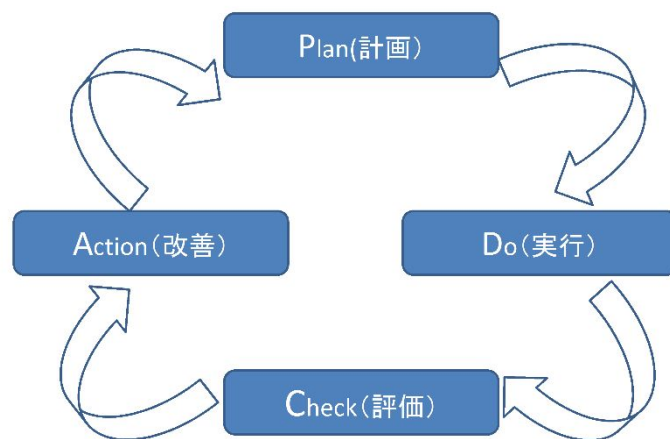
(2) 防災機能の充実と治安・防犯に対応した施設管理

- 市内中心部に位置する広域避難場所として、オープンスペースの確保や防災機能に配慮した施設（かまどベンチ、ソーラー照明灯の導入等）の整備に努めます。
- トイレ等犯罪の温床となりやすい施設の配置の見直しや改修の際には、防犯性・利便性の高い主要動線上への配置とします。

5 進行管理の見える化の実践

(1) 再整備計画のPDCAサイクル

- 改定された再整備計画について、PDCAサイクル*に基づき、進行管理を行います。
- 連絡協議会（仮）での年間報告、意見交換とフィードバック状況の報告など、関係者にかかれた進行管理を実践します。



PDCA サイクル概念図

※計画等の管理手法の一つで、P（Plan:計画）→D（Do:実行）→C（Check:評価）→A（Action:改善）をサイクルとして繰り返し進めることで、継続的に改善しつつ計画を実行する手法です。

(2) 計画の見直し

- 概ね5年ごとに、各施策について実施状況を基に検証し、必要に応じて計画の見直しを行うこととします。